

## 授業活性化

校内授業研究の活性化により授業力向上を図る！

— 学び・つながり・笑顔が生まれる授業研究とは？—

授業活性化研究グループ

## 目 次

1. はじめに	1
2. 研究方法・取組経過	2
3. 取組内容	4
☆    Q A 集	4
(1) 具体的な実践ポイント	
ア 授業を見る観点を絞る	6
イ 授業評価カードを作成する	6
ウ 事前授業研究会の実施	7
エ 参加者意識を高める WS 形式の授業研究会	8
オ 授業研究会が年間を通してつながっていくために	10
カ 子どもの学びに焦点をあてたビデオを活用した授業研究会	12
キ 研究会の進め方についてフィードバックしながらすすめる	14
(2) 授業研究会の記録	
(ア) 第五中学校国語科研究授業	15
(イ) 山田東中学校数学科研究授業	19
(ウ) 古江台中学校美術科研究授業	25
(3) 授業研究会のよさ	30
4. おわりに	31

### 《資料編》

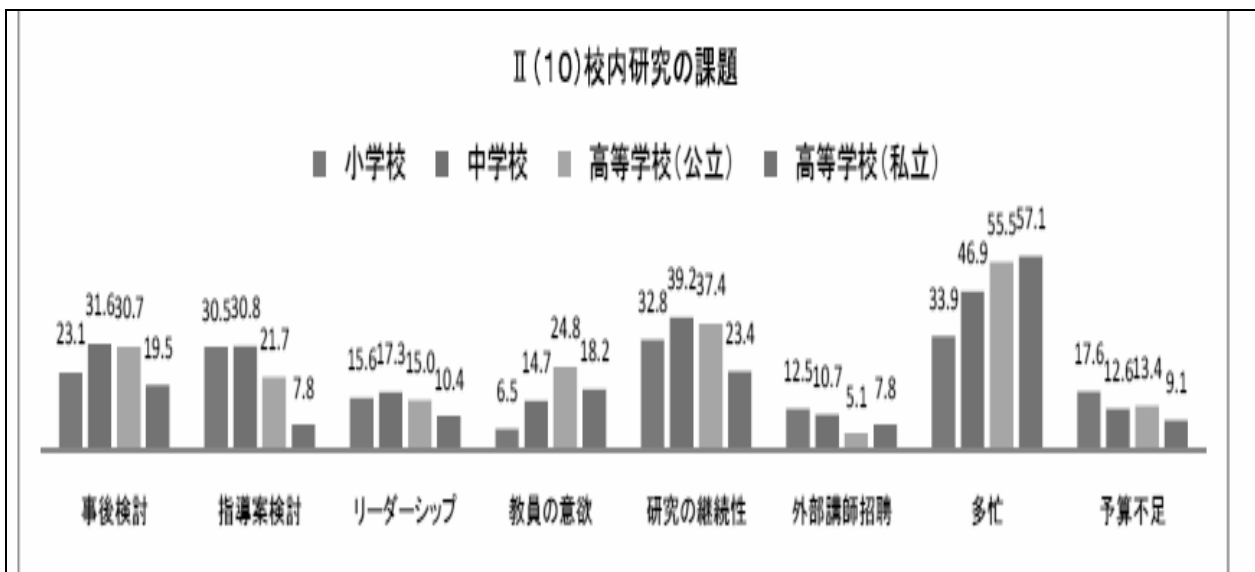
・ 研究協議会進め方例	32
・ 研究会のポイント整理例	33
・ 授業記録カード例①	34
・ 研究協議会グループワーク用シート例	35
・ 授業記録カード例②・研究会アンケートフォーム	36
・ 授業評価カード例	37
・ 授業参観カード例	38

# 1 はじめに

小学校では次年度から、中学校では再来年度より新教育課程が始まります。新学習指導要領では、各学校において、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養うこと」が求められています。このような新教育課程がめざす授業を具現化し、子どもたちの学力向上を図っていくためには、各学校が組織として授業研究を推進していくことが必要であると考えます。

平成 22 年 9 月に示された国立教育政策研究所「校内研究の実施状況に関する調査」(図 1)からは、校内研究の課題として最も多いのは、「多忙で校内研究に取り組む時間がないこと」であり、次に多いのは、「研究の継続性・発展性が十分でない」「教材研究や指導案の検討が十分でない」「研究授業後の検討が十分でない」となっています。新教育課程に伴う授業時数増が始まる次年度からは、一層授業研究会の時間確保が難しくなることが予測されますが、各学校で工夫しながら授業研究を進めていくことが必要であると思えます。

【図 1】



(2010.9.25 国立教育政策研究所 校内研修の実施状況に関する調査より引用)

授業活性化研究グループでは、吹田市内小・中学校の授業研究における現状と課題を整理し、「子どもたちの学力向上」のため学校として授業研究を進めていくための方策を昨年度より研究してきました。授業研究を語る時、どちらかといえば「教師の指導技術」に重点が置かれがちになる傾向がありますが、本研究グループでは「指導技術論」にとどまらず、授業の中で「どのような子どもの学びがあったのか」をしっかりと見取る研究を進めようと、研究テーマを以下の通り設定しました。

**【研究テーマ】校内授業研究の活性化により授業力向上を図る！  
—学び・つながり・笑顔が生まれる授業研究とは？—**

授業の中での子どもの学びを見取るということは、授業の中で、「一人ひとりの子どもの学力が伸びたのか」「つまずいていた子どもには、どのような支援をすることができたのだろうか」を議論することであり、それは、子どもたちの「わかった！」という笑顔を期待する授業研究、笑顔が生まれるための授業を作り上げようとする授業研究であると考えます。

そのことと同時に、授業研究会が参加した教職員にとって、楽しく学びがあるもの、「またやりたい」という満足度の得られる研究会にしたいと考えます。つまり、子どもにとっても、教職員にとっても笑顔を生み出す授業研究会、そして教職員同士がお互いに高め合うことのできる授業研究会をめざして研究を進めていくこととしました。

スーパーバイザとして関西大学文学部教授山住勝広先生よりご指導をいただきながら2年間研究を進めました。

## 2 研究方法・研究経過

まず、吹田市内の学校の校内授業研究の課題整理を行いました。小学校と中学校では、授業研究の取組状況に差がありますが、研究グループとしては小中の教員がともに取り組むことで吹田市内に発信出来る内容を研究していくこととしました。

### 【主に小学校での課題】

- 「お疲れ様」でとどまり、研究協議会の深まりが浅い。
- 教師のスキルにとどまっている。
- 研究授業と日常の授業、各回の研究授業のつながりが見えにくい。
- 研究授業の効果について、学校全体で実感として感じられていない。
- 内容や進め方が前年度の踏襲にとどまっている。講師に依存している。

### 【主に中学校の課題】

- 授業研究会が、なかなかもてない。  
「授業研究よりも・・・」という声 「授業研究の時間なんて・・・」
- 教科の壁があり、他教科の授業について意見を言いにくい。  
「他教科の授業を参観しても・・・」
- 「お疲れ様」で終わってしまっている。(せっかく授業してくれたのだから)
- 指導案作成等が、授業者に任されており、相談できる体制がない

これらの課題を解決していけるような授業研究のあり方について、2つの方向で取り組むこととしました。一つは、研究員が所属の学校での授業研究会の在り方について新しく提案しながら実践を進めていく方法。もう一つは、研究グループとして授業研究会を企画・実践していく方法です。

また、今年度は8月の吹田市教育研究大会分科会において、これまでの取組報告と参加者とともに作り上げる模擬授業研究会を提案しました。今年度の主な研究経過は以下の通りです。

5月21日(金)	研究員委嘱式・今年度の研究方向性確認
6月3日(木)	6月授業研究会に向けて 事前指導案検討会
6月11日(金)	
6月14日(月)	校内授業研究リーダー養成研修 1回目
6月21日(月)	授業研究会開催 「第五中学校 1年国語」
7月5日(月)	教育研究大会に向けて
7月27日(火)	
8月2日(月)	
8月26日(木)	
7月14日(水)	公開授業「古江台中学校 1年 美術」
8月5日(木)	校内授業研究リーダー養成研修 2回目
8月30日(月)	吹田市教育研究大会 分科会で報告
10月5日(火)	教育研究大会総括・1学期の各学校取組報告
10月18日(月)	授業評価研修(教育課程推進委員会)
11月2日(火)	12月の研究授業に向けて事前指導案検討会 各学校の取組報告
11月15日(月)	
12月3日(金)	授業研究会開催「山田東中学校 2年 数学」
12月20日(月)	授業研究会まとめ
1月20日(木)	研究まとめに向けて
1月28日(金)	校内授業研究リーダー養成研修 3回目
2月15日(火)	研究まとめに向けて
3月3日(木)	

## よい効果的な 校内授業研究を進めるために・・・

## 参加者にとって学びがあり、学校が元気になる授業研究会をするために・・・

### Q1 研究協議を深めるためには？

### Q&A

- ① 研究会、いつも同じ人が意見を言って、経験年数の少ない私は発言しにくいなあ・・・
- ② 研究協議会で出る意見は、「お疲れさま。子どもたち頑張っていましたね。」これでいいのかなあ・・・

- A1 ワークショップ形式を取り入れてみましょう。(P8)
- A2 グループ協議の時間を取り入れてみましょう。(P8)
- A3 ワークショップやグループ協議の時間もとれない場合は、「ペアタイム」として隣の人と少し話す時間をとるだけでも全体協議を深めるのに効果があります。
- A4 討議の柱を研究会の前に、はっきりさせておきましょう。(P9)

- ③ 教科が違うから研究会でも意見いいにくなあ・・・

- A5 各教科・学年に共通する「授業を見る観点」を絞って提示してみましょう。(P6)
- A6 他の教科の先生も一緒に事前に授業検討会をしてみましょう。(P7)
- A7 授業評価表を活用してみましょう。(P37 資料)
- A8 ビデオを活用し、「子どもの学びの姿」に着目しながら研究協議を進めましょう。(P13)

#### ☆ ワークショップ形式で実施した際の「全体協議」を深めるために・・・

- ④ グループ協議後の全体協議がなかなか深まりにくいんだけど・・・
- ⑤ 全体協議の時間の確保がむずかしいんだけど・・・

- A9 グループ協議では、『キーオピニオン』を提案するようにまとめましょう。その後、「キーオピニオン」について全体で改善に向けて協議しましょう。(P 9)
- A10 1回目の研究会は流れや趣旨確認のため時間がかかりますが、回数を重ねるごとグループ協議の時間が短縮できるようになります。年間の研究授業の1回目は、公開授業を5時間目に設定し、2回目以降は6時間目にするなど、年間を見通した計画を立てると効果的です。

### Q2 研究授業の成果を、日常の授業や次の研究授業に生かすためには

- ⑥ せっかく、研究授業してくれてはるのに、そんなん否定するみたいな意見言われへんわ・・・

- A11 授業者本人にとっても「やってよかった」と思える「学びのある研究会」にしましょう。そのためには、参加者みんなが「授業をつくっていく」という方向で研究会を進めましょう。良さや課題整理を行い、今後の授業の改善点が見える研究会にすることが大切です。(P10)

- ⑦ 頑張っ研究授業したけど、その授業だけで終わっているような・・・  
本当に力になっているのかなあ・・・？

- A12 研究授業後、改善策を盛り込んだミニ授業研究会を、学年や教科で実施してみましょう。
- A13 研究授業後、後日改善授業を行い、その成果を発信し全体で共有化しましょう。
- A14 授業研究部だよりを発行し、研究授業の成果を全体で確認する場を持ちましょう。
- A15 研究授業当日配布資料に、前回までの積み上げの成果を確認できる内容を入れましょう。(P11)

- ⑧ 1年間続けた研究会、どんな成果があったのかなあ・・・

- A16 縦(6年間・3年間)・横(教科・学年集団)の系列が見える形で財産を残すことで、みんなで成果を共有出来る形になるのではないのでしょうか？

### Q3 (中学校で、) 授業研究会を実施するためには・・・

A17 まずは、公開授業参観週間を設定し、お互いの授業を見ることから始めてみましょう。

- ⑨ 公開授業週間を効果的に実施するためには・・・？ 参加者を増やすためには・・・？

A18 時間割を作り、参観者を書くような様式を示してはどうでしょうか？

A19 公開週間の間、毎朝呼びかけてみましょう。

A20 参観した人の感想文などを紹介するのも良い方法です。プリントする方法もありますが、もっと手軽に、付箋紙を活用して整理し、職員室等に掲示してみてもどうでしょうか。

- ⑩ (中学校) 全員が研究授業を参観できるようにするためには？

A21 授業者が、研究授業対象の授業を、自分の担当クラス複数の授業を公開し、参観者は各自参観出来る時間に参観するようにしてみましょう。公開する授業の時間割を示し、参加者が印を付けるようにするとそれぞれが意識しやすくなります。

A22 年度初めに学校として年間計画に位置づけて実施してみましょう。(年間数回)

- ⑪ 研究授業参観できない人がいても、授業研究会を実施する方法は？(小学校でも活用出来ます!!)

A23 ビデオの活用により、参観できなかった人も一緒に研究会に参加できます。(P13)

A24 公開授業と研究協議を同日ではなく、日程を分けて開催することもできます。(P13)

#### ☆ ビデオの効果的な撮り方は？

A25 子どもの学びに焦点をあて、1分前後で短く切って撮っていくと後から再生が便利です。

A26 できれば、ビデオ撮影担当者は授業者と事前に打ち合わせを行い、どのポイントで撮影するか、研究会でどのような映像を活用するかを打ち合わせておくとう効果的です。(P13)

### Q4 授業研究会って、本当に必要なのかなあ・・・？ 大変やなあ・・・

- ⑫ 忙しいのに、授業研究会なんてやってもなあ・・・

- ⑬ 私の授業は、現状で大丈夫・・・今までずっとやってきたのだから・・・

- ⑭ 研究授業したら、いろいろ言われるのんいややなあ・・・

A27 授業研究会は、実際にやってみてこそ、その面白さや価値を味わうことができます。参加した人が「なかなか楽しい。またやってみよう」と思える授業研究会を作り、広げていきましょう。

A28 授業内容がよくなると、子どもたちが困ります。

A29 研究授業は自分を伸ばすきっかけとなります。プラス思考になりましょう。

#### ☆ 授業研究会のよさ・意義については、P30を見てください!!

- ⑮ 授業見てもらうのはいいのだけれど、指導案を作ったり、授業の準備が大変だなあ・・・

A30 まずは、指導略案による授業研究会からスタートしてみても？

**まずは、お互いの授業を見合うことから始めましょう。**

- ⑯ このような授業研究会、意義はわかるけど研究会の準備が大変だなあ・・・

A31 準備は大変ですが、役割分担をしてやってみましょう。準備することで司会進行役が楽になります。最初は大変ですが、慣れてくるとスムーズに進むようになります。研究会で使える提案資料・進め方等の枠組みの資料があります。活用してください(P32~38 資料編)

#### 中学校ブロックでも、授業研究会を実施しましょう!!

上記のような教科や校種を越えて授業研究会をする方法で、中学校ブロックで授業研究会を進めましょう。授業研究を小中一緒に行うことで、9年間の子どもの育ちを見通した学力向上が図られるのではないのでしょうか。また、中学校ブロックでの授業研究会は、中学校にとっては、小学校の授業研究会のノウハウも生かしながら実施することができるメリットもあります。

## (1) 具体的な実践ポイント

実際に学校で授業研究会を進めていくための具体的なポイントについて以下に紹介します。  
QA集のQとの連動については、**Q1**のように示しています。

### ア 授業をみる観点をしぼる

#### Q1 研究協議会を深めるために (A5)

授業研究会を進めていく上で先ず最初にするべきことは、教職員みんなが「めざす授業像」について共通認識を持つことです。学校教育目標（努力目標）に則り、「どのような授業をめざすのか」「どんな子どもを育てるのか」「子どもにどんな力をつけるのか」についてしっかり意思確認を行うことが必要です。特に中学校では、**教科の特性を越えて共通する授業像**を確認する必要があります。

例えば、今年度、研究グループの授業研究会で確認した「めざす授業像」は次の通りです。

#### 【めざす授業像】(例)

- ① 自分の考えを持ち、表現する場がある（思考力・表現力）  
→ 根拠を持って、自分の考えを表現できる
- ② 子どもたちの活動がある。
- ③ 子ども同士の学びの場がある。（ペア・グループ活動）

実際の授業研究会では、この観点を更に具体化した授業をみる観点として授業展開に沿って以下のように考えました。

#### 【授業を見る観点】(例)

(※学習活動の番号は本時指導案の内容)

- ① 自分の考えや意見を記述できていたか (学習活動2 一人で考える)
- ② 自分の考えや意見を発表できていたか (学習活動3・4 グループ)
- ③ 自分の考えを基にグループで話し合い、各自の考えを深めることができていたか (学習活動 3 4 5)

このように教科に共通する観点を設定することで、研究協議会で、教科や校種・職種が違っていても、参加者が意見を言いやすくなります。

また、グループ活動を中心とする授業では、参観者が、授業観察をする子どものグループを予め指定しておき、授業後の研究会では同じグループを観察した教員同士がグループ協議をすると、子どもたちの学びの様子をより具体的に協議することができます。

### イ 授業評価カードを作成する

#### Q1 研究協議会を深めるために (A7)

1の「めざす授業像」を踏まえて、授業の基礎基本なども組み入れながら、学校独自の授業評価表を作成します。授業評価表を作成するために、その項目を検討すること自体が、各学校での「めざす授業像」「授業で大切にしたいポイント」を共通認識することにつながります。

授業評価カードの活用については、その対象によって①教職員の相互評価②教師の自己評価③児童・生徒から教員への評価 ④保護者などがありますが、今回は教職員の相互評価・自己評価について紹介します。

研究授業後の研究会で活用する他、初任者研修など経験年数の少ない教員が日々の授業で先輩教員に参観してもらうときに活用したり、中学校などで「授業公開週間」を設け、全ての教員の授業参観を実施するときの指標とするなどの活用方法があります。授業評価シートの例示



は、資料編（P 37～38）に紹介しています。

授業研究会での授業評価カードの活用方法が難しいという声もよく聞かれますが、授業の基礎基本の部分（発問・板書・指示・教材提示の工夫など）と「めざす授業像」にそった研究の重点項目の取り上げ方を工夫してはどうでしょうか。具体的には、次のような方法が考えられます。

- （１）基礎基本の部分については、授業者にアドバイスとして返し、研究の重点についての項目について、グループ・全体で協議し深める。
- （２）授業評価表を研究会の前に回収し、項目ごとに集計し、効果的であった内容・課題のあると思われる項目について確認し、重点的に協議する

#### 【具体例】

- 「指示・発問がわかりやすい」の項目が「良かった」  
⇒ 指示を区切って示すことが効果的  
流れを視覚支援を使いながら提示したのは効果的
- 「子ども自身が考える場があったか」の項目に「課題」  
⇒①どの場面で、考える場面を作ることができただろうか  
②子ども自身の考える力が身についていたのだろうか？⇒そのための手だては？

次の授業に生かす。  
学校としての「学び」に

この2点について、ポイントを絞り、グループ協議・全体協議を深めましょう

#### ウ 事前授業研究会の実施

##### Q 1 研究協議会を深めるために (A6)

中学校では研究授業をしても、教科が違ふと意見が言いにくいということがあり、なかなか研究協議が活発にならないという現状があります。その解決方法の一つとして、事前の指導案検討会を教科を越えて一緒に行う方法があります。

授業活性化研究グループでは、中学校の数学・国語の研究授業を行うにあたり、様々な教科の中学校の教員や小学校教員が一緒になり指導案検討を行いました。教科や校種が違っても、「子どもの反応を予測すること」「子どもの意欲を高めるための工夫」「わかりやすい授業のための教材の工夫」などについて、熱く議論を交わしながら指導案を作成して行くことができました。研究協議会では、ともに検討した指導案だからこそ、遠慮なく良さや課題を一層明確に指摘することができ、協議の深まりにつながりました。

また、このような事前授業研究会に参加し、授業について協議すること自体が参加者の授業力向上につながることを実感しました。さらには、授業者にとっても「自分一人で考えなければならぬ」というプレッシャーがなくなり、研究授業を引き受けることに対しても抵抗が少なくなり、研究授業の活性化につながるのではないのでしょうか。さらに、P 13で紹介する「ビデオを活用した授業研究会」では、ビデオ撮影者が事前授業研究会に参加しておくことで授業のポイントとなる部分がわかり撮影しやすくなるというメリットもあります。ただ、事前に集まって検討する時間の確保が難しいという課題もあります。

#### （事前研究会を行った後、研究授業をした授業者からの声）

- 小学校や中学校の他教科の先生方と数学の授業案が本当に練れるのかな？と最初は疑問に思っていました。しかし、「子どもにとって分かりやすい授業、興味を持って取り組める授業」は全員が共通な思いなので、検討を重ねるうちに最初の疑問はなくなり、非常に有意義な、楽しい時間になっていきました。数学科以外の先生方が感じられる疑問は、生徒にとっての疑問でもあると気づかされることもあり、事前研究会は自分の指導に関する幅を広げられたと思っています。他校種、他教科の先生方との協議は決して無駄な時間ではないと感じました。
- 他校種・他教科の先生と、授業を作っていくというのは初めてでしたが、色々なアイデアが混ざって一つになっていくのが

楽しかったです。様々な視点からの意見を取り入れることで、自分の視野も広がり、その後の授業作りにもプラスになっています

(中学校事前授業研究会に参加した小学校教員の声)

□校種が異なる授業の検討でしたが、違和感なく取り組むことができました。子ども達に何の力をつけたいのかを決め、その手だてをみんなで考える際、他の先生方の考えを聞くことができ、自分自身の日々の授業の参考にもなりました。

授業研究会は、自分の授業において良い方法なのか改善するべきなのかを見直せる良い機会となるので、時間が限られた中で行うのは大変ですが、だからこそ得るものも多いなあと感じました。

Q 1 研究協議会を深めるために (A1)

エ 参加者意識を高めるWS形式の研究会

参加した人にとっても学びがあり、協議を深めていく方法として、付箋紙等を活用したワークショップ形式の研究協議会があります。進め方の基本的な流れと効果的に進めるための方法について紹介します。ワークショップ形式の研究会の良さは、①主体的に参加できる②様々な立場から意見が出せる③幅広い意見がでる④参加者にとっても学びが期待できる⑤参加者の授業を見る視点が育つ⑥教職員の協働性・同僚性が高まる などがあげられます。

(1) ワークショップ形式を取り入れた授業研究会の基本的な進め方

1 流れ・観点・めあての確認 (3分)

90分で行う例

2 授業者・当該学年から授業のポイント・取組についての話 (5分)

3 「授業を見る観点」にそって、各自が付箋紙に気づいたことを記入 (7分)

☆付箋紙の色分けも授業提案内容や研究会の性質によっていろいろ考えられます。

よさと課題・ 観点別 ・各人によって (マイカラー)

4 各自の書いた付箋紙をもとに、グループに分かれて意見交流 (20分)

(人数は4人~6人ぐらいまでが適当)

- ・一人ずつが意見を言いながら付箋紙を貼る。
- ・同じ観点での意見の人があれば、続けて付箋をはりながら発言する。
- ・同じ人が続けて意見を言わないように、順番に回す。
- ・出てきた意見をまとめて、見出しをつける。(サインペンで書く)
- ・課題については、グループで改善策を考えて、サインペンで記入する

☆全体協議で深めたい意見(キーオピニオン)を決める

付箋紙を貼る様子は、「良さ」と課題「子どもと教師」、時系列、テーマごと等いろいろあります。(P10参照)

5 グループ報告 (15分)

☆キーオピニオンを中心に報告する

- ・模造紙に整理した場合は、模造紙を見せながら報告する。
- ・A3程度の紙に整理した場合は、書画カメラをつかって提示しながら報告する。

様々な意見を否定しない！  
キーオピニオンをまとめる方向で話を進めましょう。

6 全体協議 (15分)

- ・グループからでてきたキーオピニオンを整理し、全体協議のポイントを決め、協議する。(課題については、改善策を全体で考える)

7 助言 (20分)

- ・外部講師を招聘している場合は助言をいただく

8 今日の学び(シェアリング)(5分)

- ・各自の今日の研究会での学び(授業者への感想でなく)を一言で伝え、共有化する。(今日の研究会で学んだこと・自分の授業でどう生かすか)

※キーオピニオン

授業者以外にも共通する課題や教科や学年で共通実践できる改善策数多く指摘された意見とは限らない  
協議グループ内でキーオピニオンを探ることで協議を焦点化できる  
全体会ではさらにキーオピニオンを精選し、まとめとする

(2) 効果的に進めるためのポイント

Q 4 研究会って本当に必要なのかなあ・・(A31)

### ① 参加者が見通しと目的意識を持って参加するための工夫

授業者（授業提案学年）や司会者だけでなく、研究会の参加者すべてが研究会の目的や討議の柱、研究会の進め方について共通理解をしておくことが必要です。そのためには、授業提案のポイント・授業参観の観点・研究会のポイント・研究会の進め方等のわかる当日配布資料や掲示物（板書）を準備しておくことが効果的です。（資料編 P 32～33 参照）準備は大変なように思われるかもしれませんが、準備しておくことで、司会者は進めることが楽になりますし、研究会もスムーズに進み、時間短縮につながります。参加者も時間を意識しながらグループ協議や全体協議を進めることができます。

### ② 研究討議の柱の明確化

Q 1 研究協議会を深めるために (A4)

年間計画に基づいた「研究目標（努力目標）」のテーマに基づいた研究授業では、その研究テーマを具体化した討議の柱を絞り協議をすることが大切であり、そのテーマの設定の仕方によっても協議の深まりが左右されます。

例えば、「伝え合う力を育てる指導の工夫」という研究テーマでの研究授業では、その研究テーマでの研究授業では、努力目標として掲げる、めざす子どもの姿に照らし合わせながら、その授業におけるめざす伝え合いの姿を設定し、その姿にせまれる授業だったか、また、そのための指導の工夫や手立ては有効だったのか、ということに柱に協議を深めます。（P 33 参照）

「少人数授業での指導方法の工夫改善」ということがテーマである研究授業であるならば、「少人数のよさを生かした指導方法・指導形態・教材提示ができていたか」ということがテーマになりますし、中学校ブロックのような大きな授業研究会であるならば、中学校ブロックで大切にしている研究の柱（たとえば「言語力の育成」）やめざす授業像を具体化した討議の柱を決めるとよいのではないのでしょうか。

(3) 全体協議を深めるために

Q 1 研究協議を深めるために (A9 A10)

ワークショップ形式の研究会を実施している学校からよく聞く悩みとして、「グループでは意見交流が活発になったが、全体協議の深まりが物足りない。」「次への方向性がわかりにくい」「時間が足りなくなってしまったが、もう少し講師先生のお話を聞きたかった。」という声があります。1つの理由は、研究会全体の時間配分の問題（グループ協議に時間がかかってしまって、全体協議の時間が十分に持てない）こと。2つ目の理由は、課題が拡散してしまい、全体協議で絞った議論がなかなかできないことがあげられます。以下解決に向けての方策を提案します。

#### ① 時間配分

新教育課程実施に伴い授業時数が増加する中、授業研究会の時間を確保することも難しくなっています。ワークショップ形式の中でのグループ協議については、参加者が慣れるまでは時間がかかりますが、慣れてくると時間も短縮して15分～20分ぐらいでできるようになります。そこで、1年の最初の授業研究会では、授業研究会の時間を90分程度確保し、参加者が慣れてくる2・3回目からは、少し短い時間の設定でやってみるようにはどうでしょうか。

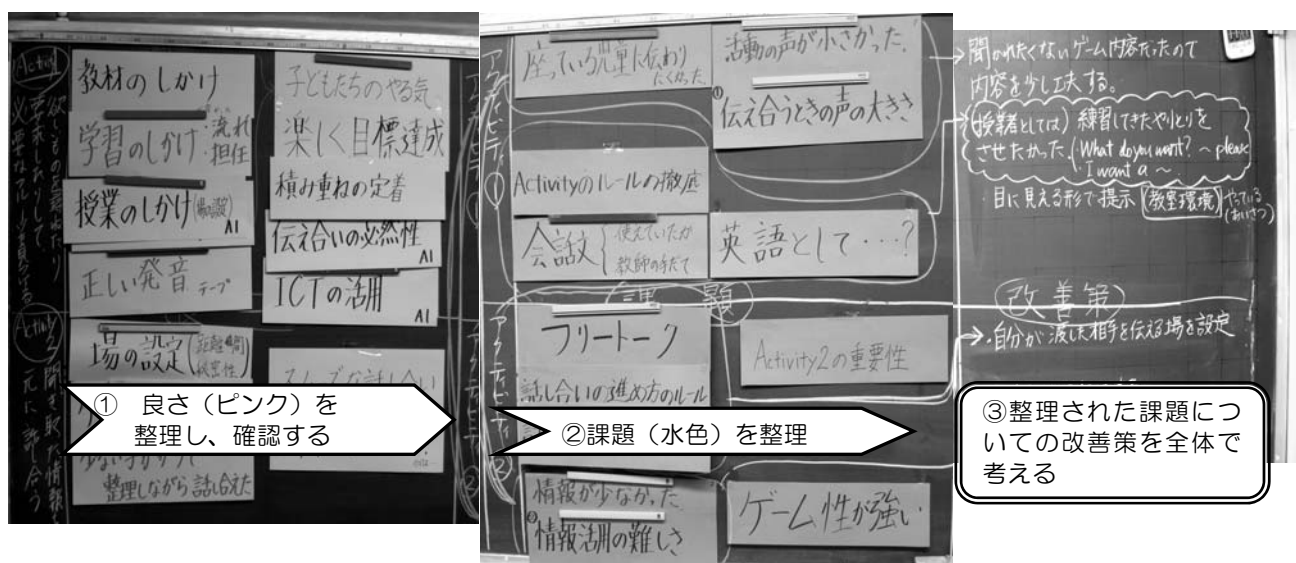
また、(2) (上記) で示したように、研究会の流れ・時間配分を参加者に最初に示し、参加者自身も見通しを持って進めていくことが大切です。さらに、グループ報告場面では、すべてのグループから詳細を報告するのではなく、報告内容を前のグループから出てこなかったこと

についてのみに絞るなどの工夫も考えられます。グループの詳細の内容は、グループごとの模造紙やワークシートを研究会後、職員室の後ろや会議室に貼るなどの工夫により共有化することができます。それでも、グループ協議をする時間が確保出来ない場合は、隣同士の人とペアで話す時間を少し取り入れ、全体協議につなげるようにすると、意見が出しやすくなります。

## ②キーオピニオンを明確にし、グループから提案する

全体協議を深めるためには、グループで話し合ったことの中から、研究会の観点に沿って全体で深めたいことを絞り、キーオピニオンとして提案します。キーオピニオンを書くには、色画用紙で作った短冊などが効果的です。全体協議では、各グループから出てきたキーオピニオンを黒板などを使い整理しながら、成果を確認し、課題改善の方策を全体で協議していきます。

### キーオピニオンを活用して、良さ・課題を整理し、改善策まで考える例

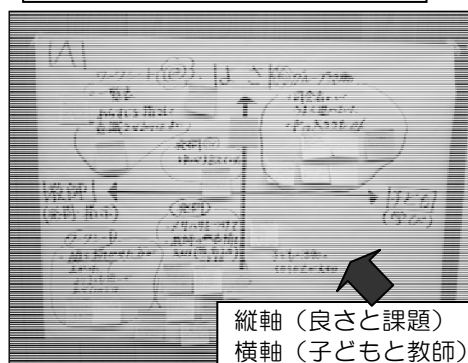


① 良さ（ピンク）を整理し、確認する

② 課題（水色）を整理

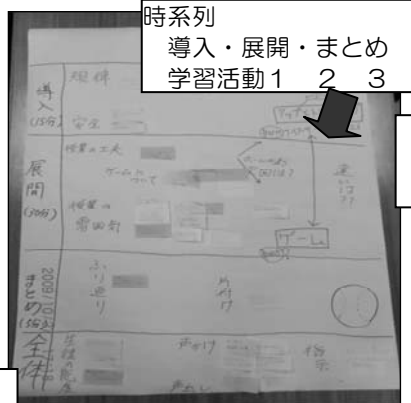
③ 整理された課題についての改善策を全体で考える

グループ協議の中で付箋紙を活用してまとめる例

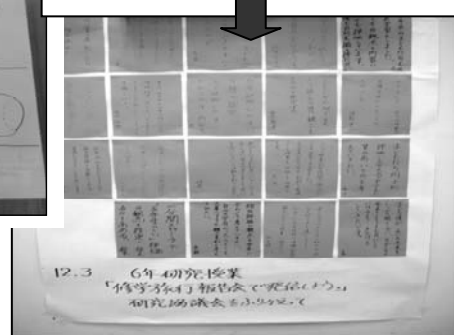


縦軸（良さと課題）  
横軸（子どもと教師）

時系列  
導入・展開・まとめ  
学習活動 1 2 3



各自の学びを、付箋紙に書き、研究会終了後、職員室などに掲示



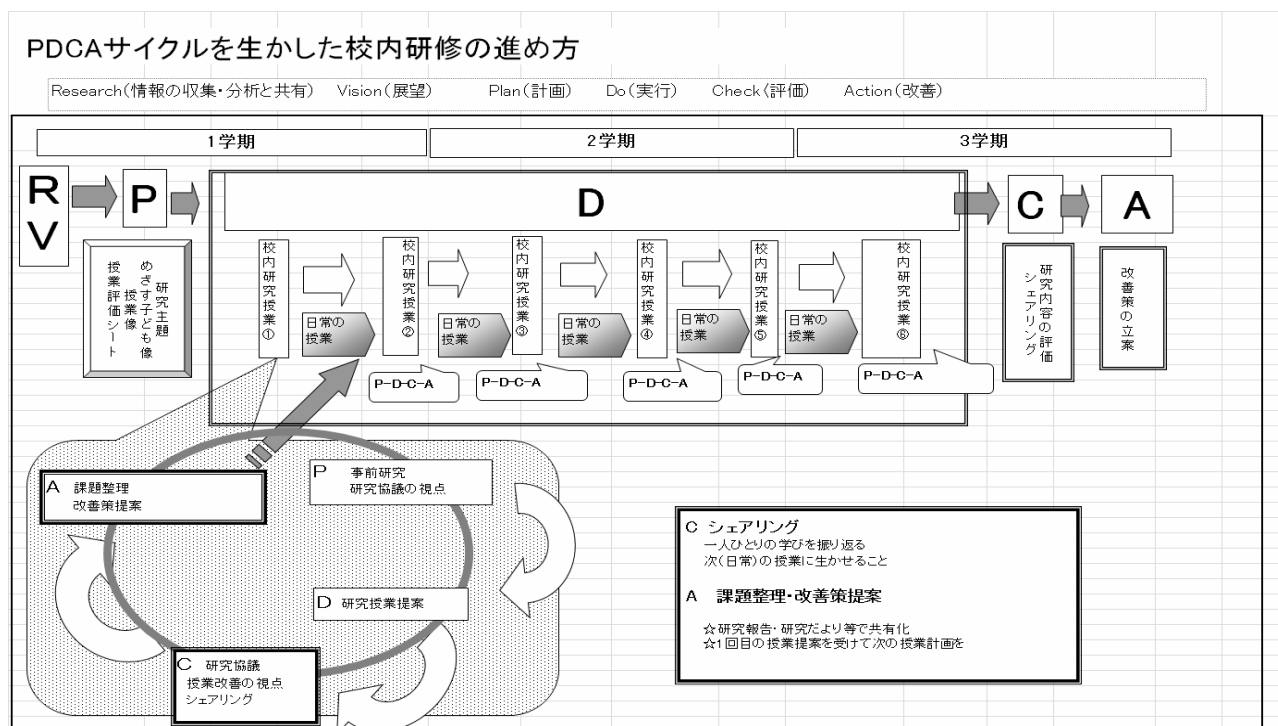
## (4) 参加者自身の振り返りの時間と学びの共有化

参加者すべてにとって学びを深めるためには、今日の授業・授業研究を振り返り「自分にとっての学び」を意識するために、研究会の最後に「授業者への感想」ではなく参加者の学びを伝える場を持つことが大切です。時間がどうしても取れない場合は、付箋紙などに書いて、その時間は代表で数名のみ発表し、その後みんなの分を模造紙にまとめて掲示し、みんなが見ることができるようにする、あるいは授業研究委員会がまとめてプリントにして配布するなど工夫ができます。

オ 授業研究会が年間通してつながっていくために

**Q2 研究授業の成果を生かすために (A15)**

膨大な時間をかけ準備して実施した研究授業が、日常の授業や次の研究授業にどのようにつながっているのかが見えにくいと感じられたことはないでしょうか？以下の図は、PDCAサイクルを生かした校内授業研究の進め方のモデルです。2回目の研究授業は、1回目の成果を継承し、課題を改善する方向で検討する、子どもの姿・変容を継続してみとるなど、せっかくの研究授業の成果がつながり、次に生かせるようにPDCAサイクルを意識して取組を進めてみてはどうでしょうか。



研究授業や日々の授業での取組を繋がりのあるものにするための実践を紹介します。ある小学校では、二年生の研究授業終了後の研究会で、「低学年で交流活動を取り入れるなら、グループよりもペア交流の方が効果的である」という話でまとまりました。それを受けて、その後に行われた一年生の研究授業では、ペア交流を取り入れた授業を行ったという実践です。このような取組を行うためには、研究会で出た意見を、できるだけ早いうちにプリントにまとめ先生方に配布することや、今までの研究会での課題や成果をまとめているプリントを、研究授業当日の資料として配付することが必要です。[以下(1)]年度末にまとめるだけでなく、その都度まとめることが大切だと考えます。

また、研究授業だけでなく、日々の授業への繋がりのある取組は大切です。一つの実践を紹介します。ある中学校では、ICT機器を取り入れた授業を行おうという提案がありました。最初はなかなか進まなかったのですが、一つの学年で「難しいかもしれないがやってみよう」と始めました。その中で、取り組んだからこそ分かる成果や課題を、学校の先生に徐々に伝えていくことで、今では多くの先生方がICT機器を取り入れた授業を行うようになったという実践です。

どちらの実践からみても、取組の中から生じた成果や課題を広めることが重要であることが分かります。様々な方法で広め、繋がりのあるものにする事で、さらなる成果にも繋がりますし、学校としての財産になっていくのではないのでしょうか。

(1) 研究会配布資料の工夫

前回までの研究会で明らかになった内容をまとめ、次の研究会のときに提示する資料に入れ、研究協議の柱として意識をしながら進める。(下記資料)

2010. 12. 14.

テーマ「子どもが生き生きと活動する授業をめざして」  
 一詩や物語文を読み取り、伝え表現する力を育てる」  
 【研究の重点】  
 自分が作品をどう読むかを明らかにし、読み取った  
 つけたい力を明確にして系統付ける。」

昨年度までの確認事項の共有化

授業の中で	日常的に
<input type="checkbox"/> 学習計画 <input type="checkbox"/> 相手意識 <input type="checkbox"/> ワークシートの工夫 <input type="checkbox"/> モデル学習 <input type="checkbox"/> 評価基準	<input type="checkbox"/> 授業のはじまり <input type="checkbox"/> 目的意識 <input type="checkbox"/> 学びのあと <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> ヒントカード（個に応じた指導）

前回までの研究会での共通化事項を確認

【交流について】  
 ・グループ交流が活発になるために、どんな手だてを行うか（5・6年研究授業より）  
 ※ポストイットを活用する（4年生研究授業より）  
 ・グループ交流での話し合いの内容を、クラス全体へどう伝えるか（5・6年研究授業より）  
 ※話し合った内容をいくつかのグループに発表させる  
 ・話し合いをさせる目的をはっきりとさせ、その目的を子どもに伝えること（4年研究授業より）  
 ・低学年では、グループ交流より、ペア交流が効果的（2年研究授業より）  
 ・交流を行う際には、モデル学習が効果的（2年研究授業より）  
 【書くこと・読むことについて】  
 ・読む視点の提示や、文の書き方の形式を提示するなどの手立てを行うこと（5・6年研究授業より）

1年生「詩を楽しもう」  
 【つけたい力】

観点	（観点1） 自分の考えを表現	（観点2） 交流による学び	（観点3） 本時の目標
前回の授業から			
良さ			
課題			
改善策			
今後の授業にいかしてい			

前回の研究会からのつながりを意識できるよう工夫

(2) 研究協議会の内容を共有化する

研究協議会で明らかになったことを次の研究授業に生かすためには、研究協議会のまとめをできるだけ早く作成し職員が意識できるように（可視化する）ことが大切です。研究会のまとめが年度末に出され、まとめの冊子に載っているだけ・・になっていないでしょうか。

「授業研究部便り」という形で、授業研究会のまとめを印刷して職員に配付したり、次回の授業研究会の資料として、前回までの研究会の確認ポイントをいれた資料を配付するようにはどうでしょうか。P14に示す研究会の振り返りアンケートと一緒に各自の学び・感想を集約し、その都度まとめて参加者に返すという方法もあります。

## カ 「子どもの学び」に焦点をあてたビデオ活用研究会

Q 1 研究協議会を深めるために (A8)

Q 3 公開授業参観できなくても、研究協議会を実施する方法は？ (A23~26)

子どもたちの学びの姿を具体的に見取りながら研究会を進めていくためには、ビデオを活用することが効果的です。また、中学校などで授業参観を一斉にすることが難しい時などは、ビデオを活用した授業研究会であれば、授業参観できなかった人も研究協議会に参加し、子どもの姿を見ながら協議を深めることができます。

また、授業参観と研究会を同日日程でなくても開催できるので、研究会の参加体制のより良い日程を考えることも可能になります。例えば、1学期に公開授業を実施した2つの授業研究会を夏季休業中にまとめて研究協議会をするという形も考えられるのではないのでしょうか。

### (1) ビデオを活用した授業研究会の基本的な進め方

ビデオ撮影者は、授業提案のポイントや研究協議の柱について、事前に十分理解しておき、どのポイントを撮影するのかを頭に入れておく必要があります。1時間の授業全てを再生するわけではないので、撮影するポイントが明確になっていないと研究会でのビデオ提示の際、時間がかかりすぎてしまうという危険性があります。

- ① 研究テーマ・指導案にそって、授業者（授業提案者）とビデオ撮影者が撮影ポイントについて打ち合わせをする。
- ② グループ活動等の場面が中心になるような授業では、複数のビデオカメラでグループごとに撮影する。
- ③ 一斉指導場面では、複数のカメラで、教師の指導場面と子どもの反応を役割分担し、撮影する。
- ④ 部分として振り返るために、できるだけ1~2分程度のコマに分けて撮影する。  
(研究会で再生するときに、頭出しに便利)  
※ハードディスクタイプのビデオカメラが使いやすい  
※小型のハンディタイプのカメラを使うと、子どもたちにも抵抗感が少なく撮影しやすい。  
(小型カメラは、性能により、音声が拾いにくいというデメリットもある)
- ⑤ 子どもたちの学びを見取るために、児童・生徒の表情、発言、作業を中心に撮影する。
- ⑥ 撮影者は、研究協議会が始まるまでに、研究協議の柱に基づいて協議できそうな映像を数か所選んでおく。

### (2) 研究会での活用方法

グループ協議の際に、グループごとにビデオを見ながら子どもたちの学びの様子について議論します。その際に、ビデオ撮影者は、撮影した内容のうち選んでおいた子どもの姿を提示し、参加者はその子どもたちの姿を見ながら研究協議を進めます。また、参観者から出てきた意見に基づく子どもの姿を、ビデオから探してグループの教員で確認しながら協議を深めることもできます。

そして、各グループからの報告の際に、映像を活用しながら、グループでの協議内容の報告をします。この時、グループからの報告者は、その授業の中で起こった子どもの学びに至るドラマを語るストーリーテラーのようです。グループ協議でのビデオの再生は、各学校に整備されたタブレット型ノートパソコンが活用できますし、小学校ではグループ協議を各教室に分かれて各教室のテレビを活用する方法も可能です。



教室に分かれてプロジェクタで投影

事実に基づき、  
子どもの学びについて議論



グループごとにノートパソコンを活用

## 学びのドラマを語るストーリーテラー



990の素因数分解の答えはノートにかけていましたが、説明の仕方がわからず困っていました。しかし、話し合い中で、言語化していく場面がありました。

(ビデオ)

「990は、 $99 \times 10$  やろ、そのあとの10を $2 \times 5$ の整数のかけ算におおしているんやな」

「まず、大きい数字を簡単にしているんやな」

「それ！大きい数字のかけ算にしていくなや」

このようなやりとりの中で、数学的な思考を言語化していく生徒たちの学びがみられました。

Aくんの「4の4乗が16やろ。」という発言に対して、Bくんが「4の4乗は $4 \times 4$ じゃなくて、4を4回かけてことやで。4を2回かけただけで16、3回かけたら64やねんから、4回もかけたらめっちゃ大きい数になるやん。」と言いました。するとAくんは「ああ、なるほど。」と納得していました。このようなやりとりは少人数のグループだからこそできた会話だったと思います。Aくんにとっては乗数の意味を再確認できたし、Bくんにとっては説明することでより理解は深まったと考えます。つまりグループ学習という形態は、子ども同士が学び合うという点においてとても有効だということが分かりました。



### 【良さ】

- 子どもの学びの様子を事実に基づき議論することができる。
- 何度でも再生できるので、子どもの学び場面を何度も振り返りながら授業分析ができる。
- 授業中には気づかなかったことも、映像から多角的に検討することができる。
- 限定した場面を見ることで、協議が焦点化できる。
- 授業を見られなかった人でも、研究協議会に参加することができる。
- 公開授業と授業研究会の日程を分散して実施することができる
  - ⇒ 公開授業を1学期に実施し、夏季休業中に授業研究会を実施するなどの工夫も可能です。
- 撮影したビデオは、授業研究会だけでなく、次時の授業に生かすことができる。

### 【課題】⇒ 解決策

- ビデオの音声小さく発言が聞き取りにくい。
  - ⇒ できるだけ近くから撮りましょう。近くでも拾えない音声は、子ども同士でも相手に十分聞こえていない可能性があります。声の大きさの指導も必要です。マイクを付けることも一つの方法です。
- 子どもがビデオを意識してしまいいつも通りの姿が見られない。
  - ⇒ 「先生たちの勉強のためのものなので、普段通りの姿でいいよ」という趣旨を伝えましょう。
- ビデオ担当者が撮影することに気を取られて過ぎて、授業をじっくり参観できない。
  - ⇒ 最初は戸惑いもあると思いますが、慣れてくるとだんだん授業を見ながら、子どもの姿を見ながら撮影することができるようになります。
- ビデオ撮影者が、授業研究会までに提案する映像を選ぶことが難しい。
  - ⇒ 撮影している時に、授業のポイントに沿って提示できそうな画面を意識してメモしておくとう便利です。

## キ 研究会の進め方についての振り返り（アンケートの実施）

よりよい研究会のあり方を追求していくために、アンケートをとり、参加者の学びはどうだったのかを検証します。研究会の持ち方についてと同時に、参加者自身の学びについても書いてもらい、その都度まとめて次に生かせるようにします。(P 36資料編参照)



## (2) 授業研究会の記録

「授業研究会」の進め方について、実際の授業研究会を通して学ぶため、今年度は、中学校での公開授業を通じた授業研究会を2回実施しました。それぞれの授業研究会では、事前に「めざす授業像」を確認し、事前指導案検討会を行いました。また、当日の授業を、各グループに分かれてビデオカメラで撮影し、ビデオ映像を基にした授業研究会を行いました。

### (ア) 第五中学校国語科研究授業

「今回の授業にあたって、一番やりたかったことは、『少人数の良さをいかしたグループ活動』でした。そのため、話し合いを持ちやすい教材ということで、周りの先生にも相談しながら、『空に小鳥がいなくなった日』という詩を選びました。

第五中学校の先生方にも参加していただくため、研究会を16時スタートとしました。グループ協議は、ビデオの映像をみながら進めるため、パソコンルーム・視聴覚室・図書室の3会場に分かれて行いました。参加者の内、( )割程度が、授業参観できなかったけれど研究協議会にのみ参加してくださった方でした。授業参観できなくても、研究協議会にのみ参加できるという形を提案できた形となりました。しかし、研究会の時間が75分であったことと、映像を再生する機器の関係で、グループ協議の会場が分散したため、移動時間を要し、グループ協議・全体協議ともに少し時間が不足し、深めるためにはもう少し時間が必要であったという反省点が残りました。

#### 【研究会の流れ】

※研究協議会までにビデオ担当者は映像を確認し、提示する場面を選ぶ。

16:00 (10分)	挨拶	趣旨・流れ確認	授業者より
16:10 (25分)	グループ協議(3会場でビデオ映像を見ながら)		
16:35 (25分)	グループから報告(ビデオ映像を提示しながら)		
	全体まとめ		
16:55 (15分)	講師より助言		
17:10 (5分)	振り返り(今日の学び)		

# 第1学年 国語科学習指導案（授業記録写真入り）

学習指導者 吹田市立第五中学校 高橋由佳

- 1 日時・場所 平成22年6月21日（月）第6校時 1-1教室
- 2 学級 1年1組 少人数（男子9名、女子9名、合計18名）
- 3 単元名 「交流を通して、詩を読み深めよう」
- 4 教材名 「未知へ」木村信子  
（出典：『木村信子詩集 時間割にない時間』かど創房 1983）  
「空に小鳥がいなくなった日」谷川俊太郎  
（出典：『空に小鳥がいなくなった日』サンリオ 1974）
- 5 単元目標
  - ① 詩の形式、連のつながりや言葉に着目して、詩にこめられた作者のメッセージについて考える。
  - ② 友だちとの交流によって、読み深める。
- 6 教材観

詩には、短い言葉の中にも作者の強いメッセージがこめられている。内容ごとに連としてまとまりがあるが、その並び方にも作者の思いが込められていると考えられる。「未知へ」は三連で構成されており、未知のものへの憧れやときめきをわたしの響きとしてわかりやすく表現している。「空に小鳥がいなくなった日」は五連から構成されており、各連が象徴しているものは「森」「海」「空」の自然に関するものと、「街」「ヒト」といった人間に関するものに分かれている。第4連は詩の中で展開となる部分であり、第5連は自然と人間の関わりの全体的なまとめになっていると私は解釈している。この教材は、1974年の詩集に掲載されているもので、時代も違い、1年生にとっては少し難しい内容ではあるが、作者の強いメッセージが込められている作品なので、生徒にとって、意見を出しやすい教材であると思われる。
- 7 生徒観

1年生は、これまで「読むこと」の領域として、詩教材として「ふしぎ」を、文学教材として「オツベルと象」を学習している。「ふしぎ」では、連ごとに内容を読み取る学習をした後、グループで一つの「ふしぎ」の詩を作った。「オツベルと象」では、段落ごとに内容を押さえる中で、登場人物の気持ちを読み取る学習も行った。内容を読み取る力は生徒によって差が大きく、一人一人にあった指導が必要である。

本学級の生徒は、比較のおとなしく、真面目である。消極的な生徒が多く、積極的に発言をする生徒が限られているので、班活動の際、話し合いがきちんと行えるかどうか心配である。班活動で全員が意見を出し合えるようにしていきたい。
- 8 指導観

指導にあたっては、まずは各自が詩に対しての考えを持てるように促したい。そのヒントとして、今回は詩を読むための六つの観点を提示したいと考えている。その観点に沿って、連の順番を考えるとという活動を行うことで、連の内容や、つながりを考え、最終的には作者の思いに対して、自分の考えを持つことにつなげたい。難しい内容なので、机間指導を行う際も、一人一人に合わせたヒントを出すなどして、意見を持ちやすくする手助けを行いたい。また、話し合い活動の際には、話し合いを進める司会者に、前もって進め方を伝え、円滑に話し合いが進むよう指導したい。

9 指導計画 (全2時間)

- 第1時 連のつながりを考えながら、「未知へ」を読む。
- 第2時 連のつながりに着目して、「空に小鳥がいなくなった日」を読む。
- 第3時 詩が作られた時代背景を知り、作者のメッセージを考える。




10 本時の目標

- ① 連の順序を考えることで、作者の伝えたいメッセージについて考える
- ② 自分の考えを持ち、交流することで考えを広げる。

11 本時の展開

	学習活動 (生徒の動き)	■主な発問・指示 ※指導上の留意点・支援	★評価 (評価方法) □準備物
導 入	1 前時に学習した詩を読むときのポイントを振り返る。	<p>■詩の主題や順序を考えるとときに大切なてがかりとなることはどんなことでしたか？</p> <p>※ ポイントを短冊にして掲示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 何連からできているのだろう。</li> <li>② 繰り返し出てくる言葉を探そう。</li> <li>③ 他の連につながる言葉を探そう。</li> <li>④ 工夫している表現を探そう。</li> <li>⑤ 各連の最後の行に注目しよう。</li> <li>⑥ 題名につながる言葉を探そう。</li> </ul>	□詩を読む観点の短冊
	2 教材を読む	<p>■今日は、前回学習したポイントもフル活用しながら新しい詩を読んで考えます。</p> <p>■今日の詩は谷川俊太郎さんの作品です。谷川さんを知っていますか。</p> <p>■タイトルは「□に□がいなくなった日」です。□の中を伝えてしまうと今日考えてもらうことの答えになってしまうので秘密です。</p> <p>■小学校で習ったものより、中学レベルなので少し難しいです。頭をフル回転して考えてみましょうね。</p> <p>※教材は、1連ごとに順に掲示し1連ずつ確認しながら読む</p>	□1連ごとに書いた詩
展 開	1 観点にそって詩を読む。 ① 各自印をつけ、気づいたことをプリントにメモする。 (一人で考える)	<p>■この詩を読んで、気づいたことをメモしましょう。</p> <p>■他の連と共通していることばは、赤い線を引くなど色分けを詩ながら読みましょう。</p> <p>※ 観点を提示</p> <p>※机間指導をしながら着眼点を支援する</p>	<p>★ 観点にそって線を引いたり気づいたことが書けている。</p> <p>□ワークシート</p>
	②発表する	<p>※ 同じ言葉・・・・・・・・などを簡単に確認する。 (掲示物にもラインを引く)</p>	



	<p>2 詩の順番について考える。</p> <p>①一人で考える</p> <p>②グループで考える</p>	<p>■ 最後の二つの連を見てみましょう。あなたなら、A、Bどちらの連を最後に持ってきますか。詩の順番には、作者の意図が入っているので、作者の伝えたいことを考えながら最後の一連を考えてみましょう。最後の連は全体をまとめている、という役割もあります。</p> <p>&lt;進め方&gt;</p> <p>① 一人で考える</p> <p>② グループで考える</p> <p>③ グループで発表する</p> <p>※ 進め方を提示し見通しを持たせる</p> 	<p>□ワークシート</p> <p>★最後の連について自分の考えを(理由を入れて)書けているか</p> <p>□進め方の手順(掲示物)</p> <p>□グループでの話し合いの手順(掲示物)</p> <p>★一人一人意見が出</p>
	<p>③発表する</p>	<p>&lt;グループ考えるときの手順&gt;</p> <p>② 一人一人が自分の考えを理由もつけて言う。</p> <p>③ 意見が違う場合は再度みんなで理由を聞きながら考える。</p> <p>④ グループでひとつの意見にしぼり、結果を発表カードに書く。</p> <p>⑤ 説得力のある説明ができるように理由をまとめる。</p> <p>※ グループでの進め方の手順を示す。</p>  <p>■ 机を元に戻しましょう。</p> <p>■ 代表の人は前に出てきて、自分たちの意見を理由をつけて発表しましょう。</p> 	<p>せているか</p> <p>★意見が違う場合、再度理由を聞きながら、グループの意見をまとめるようと話し合いを進めている。</p> <p>□ラミネートで作成した発表ボード</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 評価・振り返り</p>	<p>※ 読むこと・考えること・話し合うことについて評価をする。</p> <p>■ 次の時間の始めに谷川俊太郎さんがこの詩をどんな順番で書いたのかを紹介します。そこから改めて作者の思いをみんなで考えていきましょう。</p>	

## ◇ 授業研究会を通して

### 【授業について】（参加者感想）

- ◆グループ学習の良さを改めて感じた。特に中学生になると全体の間では発言しにくくなる分、少人数だと意見が出しやすくなり、友だちの考えに触れられる。そして、それを自分の中に取り入れたり比較することにより自分の考えを広げたり深めたりできる。
- ◆グループ学習が目的なのか、手段なのか、その両方なのかという点について考えることができました。私自身グループ学習の中で自分の考えを表現し交流しあうことにより考えが深まり広がればそれがめざす学びではないかと思っています。
- ◆話し合わせるためには、子どもたちが話したい!と思うような働きかけが大切！ビデオがあると子どもたちの思いをしっかりと分析できるのでいいなあと思った。

### 【研究協議会について】（参加者感想）

- ◆ビデオがあり、後で他のグループのことがわかる安心感から一つのグループを集中してみて、子どもの学びを発見しやすかった。ビデオで振り返れてよかった。
- ◆音がとりにくいので、50%ぐらいしかビデオの効果がでなかった。
- ◆時間をもっと必要。意見が見える形でまとめられると分かりやすい。各グループからの報告で終わってしまっているのが、全体で深められればビデオを使っている意義があるのでは・
- ◆生徒の様子をよく見ることができた。

### 【講師から助言】

- 授業について：「活用力」と「協働で考える」という新教育課程のめざす活用力・思考力育成をねらった授業であったこと、与えられたものをこなすだけでなく自ら学ぶ意欲を高める・興味関心を抱かせる工夫が仕掛けられた授業であった。
- 授業研究会について：研究会での教師の発言に「子どもの学び」に関わる発言がたくさんあり、このような研究を続けていくことが、「子どもの学び中心の授業づくり」に転換していくのではないか。

### 【授業者から】

- 今回の授業は、今までやったことのないアプローチ方法だったので、不安もありましたが、チャレンジしたことで、自分の財産になったと思います。」

## (イ) 山田東中学校 数学科研究授業

「素因数分解」をどのような方法で行っていくか？様々な考え方があると思います。自分にとって分かりやすい方法を考えること、その考え方を仲間に自分の言葉で伝えること、それぞれの考え方をもとに協議し発表できることを主眼に研究授業を行いました。これは大阪府教育委員会が今年度言語活動の充実を目指し、「求められる授業」として提示した、①自分の考えや意見を記述させる。②自分の考えや意見を発表させる。③自分の考えを基に話し合う。を意識した授業を考えました。また、学研数学科とタイアップした研究授業にもなり、他校の数学科の先生などと事前検討会ができたことは非常に良かったです。検討会の中で話がどんどんふくらみ、タブレット型パソコンを使用したICT機器を活用した授業内容に変化し、NHK数学講座のように黒板板書をチョークを使わず掲示していく方法に最終的にはなりました。準備は大変でしたが、生徒の様子をよく観察できたり、ノート点検が出来たりと時間を有効に使うことができ、自分の授業の幅を広げる良い機会になりました。（指導案P20～）

研究グループ以外の先生方にも参加していただくため、教育センター授業づくり研修会・吹田市中学校教育研究会数学科部会の研修会と共催で実施し、山田東中学校の先生方にも声かけし、参加していただきました。

研究会の流れは、先の第五中学校の事例と同様ですが、今回はグループ協議の会場を分散せず、図書室内でノートパソコンを使用してビデオ再生し、研究協議を進めました。

数学科学習指導案（授業記録写真入り）

学校名

指導者名

吹田市立山田東中学校

藤田 悟己

- 1, 日時 平成22年 12月 3日(金)、第6限目14時25分～15時15分  
 2, 場所 視聴覚教室2 (C棟3階)  
 3, 学級 2年5組(男子9名、女子14名、合計23名)  
 少人数習熟度別「標準コース」 (標準・発展2コース)

4, 単元名(題材) 素因数分解

5, 単元目標

素数の意味を理解し、自然数の素因数分解の仕方を考え、伝えることができる。

6, 教材観

本単元中の「素数」については、現在の学習指導要領では中学校3年生で学習する内容であるが、新学習指導要領では小学校5年生に移行される。このため、2年生でも十分に指導できる内容であると考え。素数・素因数の言葉を理解し、素因数分解の方法を理解するだけでなく、そのやり方について自分で考え、グループの一員に自分の考えを伝え合い、グループ協議する中で学習内容を深め、言語活動の充実を図りたい。

7, 生徒観

本校では、以下の目標のもとに取り組みを進めている。

(1) 学校教育目標

- ・健康な心と体
- ・豊かな創造力と国際性
- ・自由、自律と公共の精神

(2) 本校の目指す子ども像

- ・自ら学び、考え、行動できる子ども
- ・自ら律し、自他ともに大切にできる子ども

(3) 子どもたちの様子

2年5組「標準コース」の生徒たちは、元気があり、時間や授業内での規律を守れる。「標準コース」の中でも学力差が非常にあり、計算スピード等に大きな違いが生じている。本校の全国学力実態調査の数学の結果は、A・Bとも全国結果を大きく上回っているが、活用を問うB問題の正答率が知識を問うA問題に比べて低い。全国結果と同様、活用を問うたり説明をしたりする問題の正答率が低い。この傾向は2年生も同様で、知識理解、表現処理などの問題解決能力は高いが、説明や活用する問題等は苦手にしている。先日、「多角形の内角の和」の求め方を学習したが、そのときの生徒の様子を以下に紹介する。

図1 五角形



六角形

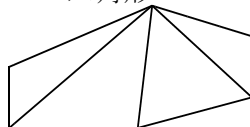
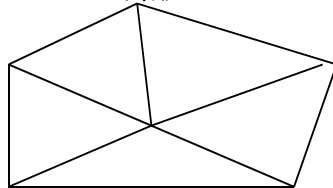
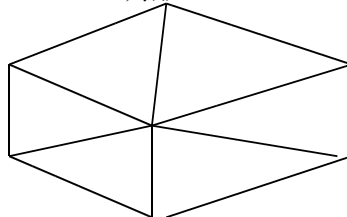


図2 五角形



六角形



五角形、六角形などの内角の和を求めるに当たって、三角形の内角の和が $180^\circ$ であることを使うことまではたどりつけたが、三角形の分け方によって、図1では五角形が $180^\circ \times 3$ 、六角形が $180^\circ \times 4$ という式、図2では五角形が $180^\circ \times 5 - 360^\circ$ 、六角形が $180^\circ \times 6 - 360^\circ$ という式で表せる考え方の説明がなかなか理解できなかった。生徒たちは、分けられた三角形によって三角形の内角の場所が五角形、六角形の内角の場所を過不足なく埋めていることや $360^\circ$ 余などところがあることが説明できなかった。このように、内角の和を計算で求めることはできても、なぜその式で求められるのかということを説明する力が弱いと言うことができる。

これらの本校の子どもたちの課題は、大阪府全体の課題とも重なる。先日大阪府教育委員会は、研修会の中で、以下の3点を示し言語活動の充実を図る授業改善を求めた。①自分の考えや意見を記述させる。

②自分の考えや意見を発表させる。

③自分の考えを基に話し合う。

そして、この3つの観点を盛り込んだ授業展開を9教科すべてで実施するよう求めている。これらを受け、本時の授業展開もこの課題を意識して、次に示す目指す授業像に基づき展開する。

8, 目指す授業像

- ①自分の考えを持ち、表現する場がある。
- ②子どもたちの活動がある。
- ③子ども同士の学びの場がある。(ペア・グループ活動)

9, 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 数学的な見方・考え方	C 表現・処理	D 知識・理解
自然数を素因数の積に分解することに関心を持って取り組んでいる。	四則計算・約数・倍数などの考え方を使って、素因数分解の方法について考えている。	自然数の素因数分解ができる。	因数、素数、素因数、素因数分解の意味や素因数分解の方法を理解している。

10, 指導計画 (1時間)

素因数分解

・・・1時間

11, 本時の計画

(1) 本時の目標

☆自然数を素因数の積に分解することに関心を持つ。 <A 関心・意欲・態度>

☆自然数の素因数分解の方法について考え、自分の考えを伝えることができる。

<B 数学的な見方・考え方>


☆自然数の素因数分解ができる。 <C 表現・処理>

☆因数、素数、素因数、素因数分解の意味や素因数分解の方法を理解している。

<D 知識・理解>

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	◆準備物 ※評価 (観点・方法)
導入 10分	<p>1, 2～10までの自然数を自然数のかけ算の式で表させる。</p> <p>「2から10までの自然数をかけ算の式にしてみましょう。使える数字は整数だけです。では、1分間でしましょう。」</p> <p>・ 2 = 1 × 2                      ・ 4 = 1 × 4 = 2 × 2          ・ 3 = 1 × 3                      ・ 6 = 1 × 6 = 2 × 3          ・ 5 = 1 × 5                      ・ 8 = 1 × 8 = 2 × 4          ・ 7 = 1 × 7                      ・ 9 = 1 × 9 = 3 × 3              ・ 10 = 1 × 10 = 2 × 5</p> <p>2, 素数の言葉の意味を教え、素数を確認させる。</p> <p>「かけ算の式を見てください。左のグループと右のグループを見て、何か気がつきますか。」</p> <p>◇予想される生徒の反応→ わからない、右のグループは1を使わなくてもかけ算の式にできる。左のグループは1を使わないとかけ算の式にできない。 「1より大きい自然数で、その数自身より小さい自然数の積で表せない数、つまり2以上の自然数で、1とその数自身でしかかけ算の式にできない数を素数といいます。素数はどの数字ですか。」</p> <p>◇予想される生徒の反応→ 2, 3, 5, 7です。</p>	<p>1を使ってもいいことをアドバイスする。</p> <p>素数と素数でない数を分けて板書する。</p> <p>☆以後指示等はノートパソコン、プロジェクターを使用する。</p>	<p>◆ストップウォッチ</p> <p>◆ノートパソコン</p> <p>◆プロジェクター</p> <p>※積極的に取り組もうとする。(A)</p>

	<p>3, 素数を確認し、20までの素数を知り、声を出して反復で読み、素数を記憶する。</p> <p>「そうですね。2, 3, 5, 7ですね。20以下の自然数で素数は2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19です。声を出して覚えましょう。」</p>	 <p>パワーポイントで1つずつ数字を消しながら繰り返し読み返して覚えさせる。</p>	
<p>展開</p> <p>35分</p>	<p>1, 因数、素因数、素因数分解の言葉の意味を知る。</p> <p>「<math>6 = 2 \times 3</math>、<math>10 = 2 \times 5</math>のように、自然数を全て素数の数字でかけ算の式に表すことを素因数分解といいます。素因数分解が簡単にできる機械があるので紹介します。」</p> <p>2, 機械に頼らず自分の力で素因数分解を行う方法を12を例として考え、ノートにまとめる。 (個人)</p> <p>(簡単に、素早く、しかもみんなが使える方法) 「素因数分解とはどんなことかわかってきたかな。では、機械に頼らず12の数字を素因数分解します。いろいろな方法で素因数分解をしてみましょう。どんな方法・考え方で計算したかグループの人に伝えられるようにノートにまとめましょう。5分間で行ってください。」</p> <p>◇予想される生徒の反応→ 簡単や。えー、どうすんの。途中で仕方がわからなくなった。文章にするの苦手や。どうやって求めるの。わからん。式書いたらいいの。</p> <p>3, 12について、どんな方法・考え方で素因数分解を行ったのかグループの人に自分の考えを伝える。(グループ)</p> <p>「途中まででもいいですから作業をやめて顔を上げて話を聞きましょう。次の作業は自分がどんな考え方で12を素因数分解したか、方法、考え方をグループの人に伝えてください。5分間で行ってください。」</p> <p>4, 今まで話し合ったことを基に、990の素因数分解の方法についてグループで話し合う。 (グループ)</p> <p>「作業をやめて、話を聞きましょう。次にグループで出された考え方を基にして990を素因数分解してください。まずはざらしにまとめてから画用紙に990の素因数分解の方法をまとめます。後で他のグループの人たちに発表してもらいます。10分後に代表の人に発表してもらいます。では始めて下さい。」</p>	<p>机間指導</p> <p>素因数分解機を使っていくつかの数字を素因数分解してみせる。</p> <p>後で、グループの人に伝えることを伝える。</p> <p>グループで発表し合うことで素因数分解のいろんことを知り、素因数分解の仕方を深めさせる。</p> <p>考える観点として(簡単・素早く・みんなが使える)を示す。明確にする。</p> <p>グループで話し合う手順を示す。</p>	<p>◆素因数分解機の利用</p> <p>※素因数分解を積極的に行う。(A)</p> <p>※素因数分解を積極的に行う。(A)</p> <p>※グループ内の考えを伝えている。(B)</p> <p>※グループ内を伝えている。(B)</p>

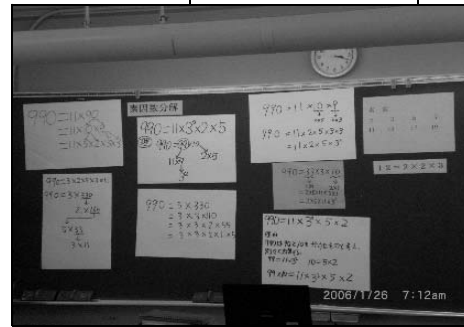




5, 各グループでまとめた考え方を発表させる。  
(全体)

「では各グループから考え方を発表してもらいます。発表者は前に出て発表して下さい。どの考え方が、簡単に、素早く、しかもみんなが使える方法か考えながら聞きましょう。」

発表された内容を認めながら、新しいことを伝え、テキパキと素数を発見したり、素因数分解ができる力を身につけさせる。



6, 練習問題をやる。

「どのグループもよく考えていますね。しっかり発表できて良かったです。では、次の数、18、24、36、96、510510を自分が解きやすいと思った方法、考え方で素因数分解をしましょう。」

※素因数分解ができる (C)  
※因数・素数・素因数分解の言葉を理解している。  
(D)

ま  
5  
分

1, 学習のまとめと振り返り。

- 「素因数分解はどう計算していけばよいか理解が深まりましたか？」
- ◇予想される生徒の反応→よくわかった。ともだちの考え方を聞いてわかった。
  - 振り返り(自己評価)  
「素因数分解はどう求めるのか、考え方を深めてくれれば良かったと思います。」
  - 今日学んだことをノートにまとめましょう。

◇ 授業研究会の様子

授業を見る観点を以下のように定め、観点に沿ってビデオを活用しながら授業観察をグループごとに分かれて行い、研究協議を行いました。

【授業を見る観点】

- ① 自分の考えや意見を記述できていたか (学習活動 2 一人で考える)
- ② 自分の考えや意見を発表できていたか (学習活動 3・4 グループ)
- ③ 自分の考えを基にグループで話し合い、各自の考えを深めることができていたか (学習活動 3 4 5)

研究協議ででた主な意見は以下の通りです。

学習活動②③ 12の素因数分解の方法を考え、伝える(個→伝える) ※授業を見る観点

ここで躓いていた子どもの存在。12の素因数分解の説明そのものがむずかしかったと言う子どもたちの姿。→ ここでの全体での確認の必要性・12という数字の是非について議論。

学習活動④ 990の素因数分解の方法をグループで考える。

友達の説明により、理解が深まる場面や意見を重ねながら、やり方を考えている場面が見られたと言う報告。しかし、全員がとまどっていたグループ・一人の子どもの考えに左右されたグループの存在。

→より多様な考えを引き出すためにはどのような支援が必要であったのかなどについて議論。

学習活動⑤ 発表場面

発表する子どもの姿や発表の仕方についての教師の指導場面。

→式が書けても、言葉で説明することがむずかしい子どもたちにとって、説明する経験や説明の仕方を学ぶこのような活動は有効。

【講師から助言 ー授業についてー】

- 「チョークを使わない授業」という子どもが考える授業をめざすという方向性が示された授業であった。
- 「言語活動の充実を図る数学科の授業」の具現化された提案であり、今回の授業で大切にされた「グループワーク」という授業形態こそが学力向上の鍵を握る。それは、主体的に表現・発表する授業・子ども自身が挑戦する授業であり、子どもたちの学習に対する子どもたちのモチベーションを上げることにつながる授業である。今回の授業では、教師の書くことを写すだけでなく自分たちで根拠を挙げて説明することが求められ、子どもたちの協議・教え合いの場面の有効性が示された。

◇授業研究会を終えてのまとめ

○指導案作成は大変であったが、授業がねられて教師のものにされ、授業の根幹がしっかりとこそ、研究協議が深まることを実感できた。

○ビデオ担当として、子どもの姿だけをとったのだが、Tの導入もとっておき、研究会の最初に見せたら、授業を見ていない人もイメージできたのではないかな。

○授業研究会に参加すると、触発されて授業へのやる気がぐんと上がる。普段は忙しくて自分に甘くなってしまうがちだが、いろんな先生と話して、考えることが自分の力となる。

- 中学校からの授業研究が発信できていること。
- 「学びのしかけ」を作る授業研究に特化しているところがよいと感じている。

#### 【講師より授業研究会についての助言】

- この研究会は、「子どもたちが授業の中で笑顔になる瞬間がすきな」授業研究会
- 学習のプロセスと成果と事実に基づいての研究である。
- 学習のプロセスは通常なかなか見ることができないが、皆でそのことを吟味し合う研究会。
- ビデオ担当の人は、授業を物語る「授業の語り部」である。自分の中で切り取った物語を語っている。その方向性が明確である。展開について見通しを持っていないとできない。ビデオを見せながら、進めるところが、他のワークショップ型の研究会とは違うところである。

#### 研究協議会の様子



ビデオを見ながらグループ協議  
(ノートパソコン使用)



ビデオを提示しながら  
グループから報告

6月と12月の中学校で実施した授業研究会を通して、授業研究会の開催が難しい現状にある中学校における授業研究会の一つのモデルを示すことが出来たのではないかと考えています。また、ビデオを活用する授業研究会を行うことが、子どもたちの「学びの姿」を大切にする授業づくりにつながっていくことが実感出来ました。

#### (ウ) 教育研究大会での模擬授業研究会「古江台中学校 美術科研究授業」

##### (1) 研究会の概要

吹田市教育研究大会分科会で、分科会参加者とともに模擬授業研究会『一緒に体験しましょう！授業研究会』を実施しました。授業参観をしていない人とともに、授業資料を基に授業研究会を実施するという試みです。7月に古江台中学校で実施した美術科研究授業を提案授業としました。

研究授業では、美術科の鑑賞の授業として、岡本太郎の『明日の神話』を題材に行いました。

作品をじっくり観てお互い意見交流をする対話型の鑑賞から、言葉で伝える力、聴く力、また共感し、理解し総合的にまとめる力など『言語力の育成』をめざした授業を展開していきました。(指導案 P28～)

参観していない人に対して、授業の様子を共有化してもらうために、ビデオ映像・教材写真・

授業風景の写真・指導案・授業記録（子どもの発言をテープ起こしたもの）を準備しました。また、限られた時間で協議を深めることができるように、協議のポイントを以下のように絞り、より良い授業への提案をみんなで考えるという形にしました。

**【協議のポイント】**

- ①個の学びをより深めるためには？
  - ②子ども一人ひとりの「言語力・表現力・思考力」をより深めるためには？
  - ③対話型（子どもたちが相互に学ぶ）授業をより深めるためには？
- ☆個の学びを 授業（相互交流）の中で、深めるためのアイデアを！！

**【研究会の流れ】**

- ① 進め方・ゴールの説明
- ②授業者から（授業の意図・流れ・提案ポイント）  
※プレゼン資料（本時目標・教材・
- ③ビデオ視聴
- ④各自気づきを付箋紙にメモ
- ⑤グループ協議 ⇒ キーオピニオンをまとめる  
《休憩》
- ⑥グループから報告
- ⑦全体協議
- ⑧各自の学びをシェアリング



研究協議の柱を絞ったことで、短い時間でしたが、各グループからはよりよい授業に向けての改善策が提案されました。授業者にとっては、今後の授業改善に向けてたくさんの財産を得ることができ、その後の改善授業にも活かすことができました。その一部を紹介いたします。

**【キーオピニオンより】 24の各グループから合計72本のキーオピニオン**

**「学習活動①について」**

- ◆子ども同士が自ら意見をつなげるために
  - ・ まず個人の考えを書く
  - ・ 発言の仕方の提示
  - ・ 資料をよく見れるように、子どもらの手元に資料を渡す
- ◆全体ではなく、鑑賞の焦点を一部にしてはどうか。

**学習活動②について**

- ◆ワークシートの中に友達の意見を書く欄をつくる
- ◆ワークシートをもとにグループに分かれて意見を深め合う

## (2) 研究会を終えて

### 【授業者から】

今回の授業研究会ででてきたキーオピニオンを参考にし、他のクラスで改善授業を試みてみました。(教師対子どもの1対1対応ではなく、子どもの発言を他の発言につなげるような進行の工夫)結果、Yチャートへの記載内容が膨らむことが実感できました。今回のような授業研究会は、「次またやってみよう」と思う励みになりました。

### 【今回の授業研究会を通して】

幼稚園・小学校・中学校を含む参加者数102名、初めて出会う人たちでのグループ協議、授業参観をしていない人同士、40分という限られた時間での授業研究会という難しさはありましたが、授業提示の仕方・研究協議会の流れ・趣旨の提示の工夫により充実した研究会を実施することができました。

今回の提案からは、ライブで授業を見ていなくても、ビデオ活用により、授業研究会ができること、協議の柱をしっかりしぼっていけば、幼・小・中合同でも授業について深く議論することができ、授業改善提案までもっていくことができることを示すことができました。また、授業提案を一生懸命考えることが、参加者の満足度につながっており、授業者にとっても、参加者にとっても学びのある研究会ができました。この形は、今後各学校・ブロックの研究会への広がりにつながっていくことができるのではないかと思います。

### 【参加者アンケートより】

#### ◆分科会の内容についての評価

とても良かった30%    よかった69%    (回収率 85.3%)

#### ◆感想より

- ・校種、教科の枠を越えて、意見を交流することができてよかった。
- ・授業研究会の持ち方について大変参考になった。
- ・ビデオ等を利用して十分に授業研究が出来るとよくわかった。
- ・誰もが参加できる授業研究会をしていかなければと思った。
- ・従来の研究授業や研究会と違い、活性化するために有効な手立てだと思いました。
- ・小中連携の中での授業研究の進め方に大きな参考となりました。

# 美術科学習指導案 (授業記録写真入り)

授業者 西田 知子

日時 2010年7月14日 (水) 4限目  
 場所 吹田市立古江台中学校 B棟1F 美術室  
 学年・クラス 1年3組 42名

## 1. 題材 『明日の神話を味わう』

### 2. 題材設定の理由

岡本太郎の『明日の神話』は、この吹田市の万博公園にある『太陽の塔』と同時期に制作されたものである。『太陽の塔』は、本校の校舎からも観ることのできる岡本太郎の代表作である。

その意味からも必ず美術の授業で取り扱う題材である。

この『太陽の塔』と『明日の神話』は、同時期に制作されたこと以上に作品の内容にも関連性があるといわれている。また、この『明日の神話』の誘致をめぐる吹田市も手を挙げた経緯もあり、この作品が我々の身近な作品として味わい、また描いた意味を考え、知ることは大切な学習要素であると考えられる。

また、生徒の様子を見ていると、言葉で正確に物事を伝えることが苦手なことが多いように感じる。今回の授業では、鑑賞していく過程で対話型の鑑賞を通して、言葉で正確に人に伝える力や他者からの情報を共有、共感し、理解し、総合的にまとめる力、言語力の育成をめざしていきたい。また、まとめとしてハイビジョンの視聴覚教材を通し『明日の神話』をより深く味わい、他の美術作品にも興味を持たすことができればと考えている。

### 3. 学習目標 (言語力の育成)


- ① 岡本太郎の『太陽の塔』『森の掟』など作品および作家の生い立ちを知る。  
 【美術への関心・意欲・態度】
- ② 作品を良く観て作品から「見つけたこと」「感じたこと」「考えたこと」をキーワードに意見が出せる。  
 【美術への関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】【言語力】・・・・・・・・・・本時の目標
- ③ 出された意見を共有、共感し、理解し自分の意見を持ち、深く味わうことができる。  
 (シンキングツールの活用) 【美術への関心・意欲・態度】【鑑賞の能力】【言語力】・・・本時の目標

### 4. 学習計画

- ① 岡本太郎『太陽の塔』『森の掟』など作品および作家の生い立ちを知る学習 (1時間)
- ② 対話型による『明日の神話』の鑑賞を通し作品を深く味わう (1時間)・・・(本時)
- ③ 振り返りのワークシートをまとめる (1時間)

### 5. 学習過程

時間経過		学習活動・指導内容	評価のポイント
2分	課題設定          課題追求	<p>●『明日の神話』をじっくり観て何が描かれているか考える。</p> <p>説明1「今日は、これから観ていく作品についてどんな思ったことを発表してもらいたいと思います。まず、この作品をじっくり観てください。」</p> <p>・ 生徒に『明日の神話』を示す。</p> <p><b>学習活動1</b></p> <p>●「見つけたこと」「感じたこと」「考えたこと」をキーワードに自分の意見を積極的に発表する。</p> <p>発問1「では、何が描かれていますか？手を挙げて言ってみてください。」</p> <p>発問2「もっと詳しく教えてください？なぜ、そう思っ</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>本日の授業のテーマを理解し、興味を持って参加しようとしているか。</p> <p>鑑賞の能力 言語力</p> <p>作品をよく観て自分の意見をまとめることができるか。</p> <p>他者の意見を聴き共有、</p>

22分		<p>たのですか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いろいろな意見がたくさんできるようにナビゲートしていく。</li> <li>• 意見が出つくしたところでまとめる。</li> <li>• シンキングツールのプリント配布。</li> </ul> <p><b>学習活動2</b></p> <p>●シンキングツール（Yチャート）に各自の意見をまとめる。</p> <p>説明2「では、今皆さんから出た意見もふまえ、シンキングツールのプリントを使ってまとめてみましょう。</p> <p>まだ、皆から出てなかったこともどんどん見つけて書いてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シンキングツールのプリントに記入した意見を数人発表させる。</li> <li>• シンキングツールのプリントを回収する。</li> </ul>	<p>共感し、理解し、総合的にまとめ、考えることができるか。</p> 
37分		<p><b>学習活動3</b></p> <p>●NHK「迷宮美術館」の『明日の神話』に関する番組DVDを視聴し、作者と作品の制作背景について知る。</p> <p>説明3「実は、この作品は、岡本太郎の『明日の神話』という作品です。今から、この作品についての映像を観てもらいます。以前に勉強した『太陽の塔』のことも思い出しながらじっくり観てください。プリントをもう一枚配ります。観ながらメモをとってください。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシートを配布 DVD視聴</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度 今までの学習をふまえて、興味を持って視聴できるか。</p>
49分	まとめと振り返り	<p>●今日の学習のまとめと振り返りをする。</p> <p>説明4「今の映像を観て、最初に鑑賞した時とどうでしたか？</p> <p>次回続けて考えていきたいと思います。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシートを回収する。</li> </ul>	<p>関心・意欲・態度 授業の振り返りがしっかりできるか。</p>
50分			

準備物 教師・・・ハイビジョンTV PC プリント その他掲示資料  
 生徒・・・教科書 造形と美術 プリントファイル 鉛筆



# 授業研究会のよさ

☆いろいろな人に聞いてみました。☆

## 自分の良さ・課題を再発見！

自分の良さ・課題が再発見できます!!!  
自分の良さ、特徴、ポリシー、クセ、改善点・・・  
自分を再発見できます！  
他の先生の授業からアイデア、指導方法等良い物を自分に取り込めるチャンス！

## 授業に変化がうまれる！

今まで、毎回同じ、毎年同じパターンでの授業してしまいがちになっていました。  
でも、研究授業をすることで新しいことに挑戦する機会になりました。また、その検証を授業研究会で行う事で、日々の自分の授業力を高める事につながったような気がします。  
このような努力は大切だと思います。

## 学校力を高める！

研究会で学年ごとの系統性を議論することで、学校としての指導方針を周知・理解することができますし、授業改善につながるところから学校の荒れを防いだり克服する力、学校力をつけることができるのではないかと思います。  
何より学校のチームワークがよくなり、学校が元気になります。

先生も笑顔！！



子どもも笑顔！！

## 参加者も学べる！

研究授業をすることで、授業者はもちろん、参観者も授業づくりに対する意識が高まり、授業力の向上につながります。授業を参観する際、ワークショップ形式で行うことにより、共通の視点を持つことができます。

そして、授業後の討議会では、研究授業を通して成果や課題を学校の教員全員で共有し、今後の指導方針を決めることができます。それらは客観的なデータが残るので、今後のふり返りでも活用できます。

このような授業研究を繰り返し行うことで良さや成果を実感でき、授業研究そのものへの意識が変わると思います。

## 自分自身を磨く機会！

研究授業に取り組むと、授業者は多くのことを学ぶことができ、自分自身の自信に繋がります。また、日々の仕事に追われている毎日から、勉強の時間を確保する機会ともなり、力を身につけることができます。研究授業に取り組んでこそ得られるものは多く、授業力向上に繋がります。

ゴールは  
子どもたちの笑顔  
そして、学力向上

研究会を持つことで、普段はあまり話をする機会のない先生とも意見交流ができるし、それによって様々な視点から課題に対する改善策を得ることができます。

教科の壁があるから中学校では難しいとか、校種の壁があるから小中合同では難しいとか思うかもしれませんが、授業を見る観点を絞れば（子どもの学びなど）十分行うことができ、活発な意見交流ができます。とにかく研究会を開き、参加すれば教科や校種の壁などはないと実感するはずです。

そして、さらには授業にいたるまでの事前検討会にも参加してもらえるようになれば、より活発な研究会になるだろうし、授業づくりを中心として教職員の意識も一つになり、それは必ず子どもの笑顔になって表れるはずです。

みなさんもぜひ、子どもたちのために授業研究会を持ちましょう。

**教科・校種が違ってでもできる！  
まずは、やってみよう！**

私は、授業研究会に参加すると自分自身の授業に対するモチベーションがあがります。また、他教科の先生と協議をすることで、様々な考え方を知ることができ、視野が広がります。他の先生の授業を見ることで、「自分ならこうしているな・・・、こうするな・・・等自分自身の授業の振り返りができます。そして自分自身の授業のパターンを増やすことが出来ると思います。とにかく、自分の財産が増えます！

**自分自身の  
モチベーションアップ！**



#### 4 おわりに

吹田市立小・中学校で授業研究をより効果的に進める方法について研究した内容を、実践事例を通して紹介してきました。研究を進めてきて一番感じることは、「授業研究は楽しい」「授業について語ることは楽しい」ということです。事前授業検討会では、次々にいろいろなアイデアや意見が出て、あっという間に時間が過ぎ、まだまだ議論したかったなあと物足りなさを感じるぐらいでした。やはり、教師は授業研究について語るのが好きなのだなあと感じました。

また、教科や校種を越えて、研究協議を深めていくことが可能であることも実感しました。そして、今回提案した形の研究会であれば、授業研究会を持つにあたっての課題を克服することができ、吹田市の中学校においても十分実施していける提案となったのではないかと思います。

子どもと教師が笑顔になるための授業研究・学校力を高めることにつながる授業研究を進めるヒントとして、各学校において、今回提案した内容や資料の一部分でも活用していただけたらと思います。

そして、今後、小中学校における校内研修だけにとどまらず、中学校ブロックでの授業研究会の実践が拡がり、充実出来ればと思います。

**次のページからは、授業研究会で活用できる資料を紹介しています。**

**この資料編で紹介しているワークシートや研究協議会資料のフォームは、「SATUKI ネット知恵の泉」にデータを登録していますので、ダウンロードしていただき、各学校で活用していただくことができます。**

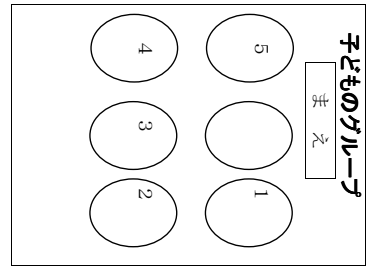
( ) 年 研究授業研究会の流れ

山手小資料

研究協議会の進め方例

研究会でのグループ分けは以下の通りです。

1	室
2	室
3	室
4	室
5	室

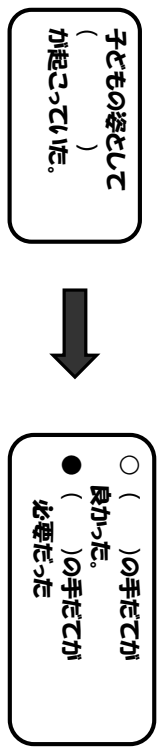


※今回の授業では、全体交流の場面もあります。その際には、指定のグループの児童だけでなく、全体の様子を見て頂き、研究会でも話し合っていたらだけだと思います。  
また、グループ交流の際には、児童は8グループに分かれていますので、先生方は、近くの2グループの様子を見て頂きたいと思えます。

【研究会の流れ 14:40~16:40】  
① 授業者・学年から(5分)  
・教師の願いや工夫したところ  
・意見や助言のもらいたいポイント

授業観察の仕方  
研究協議会の流れ  
(タイムスケジュール)  
付箋紙の書き方

② グループ協議(40分) ※司会は努目の先生でお願いします。  
・各グループに分かれて、付箋紙を活用した話し合いをして頂きます。



③ グループ発表(20分) ※発表者は各グループで決めて下さい。  
・付箋紙を貼った画用紙を用いて、話し合ったことを発表して頂きます。

④ 講師先生による課題整理 (10分)

⑤ 全体協議 (15分)

⑥ 講師先生の話 (20分)

⑦ 一人ひとりの学びを一言ずつ発表 (10分)

( ) 年 努力目標研究授業 研究会

テーマ

「子どもが生き生きと活動する授業をめざして」  
一詩や物語文を読み取り、伝え表現する力を育てる—

【研究の重点】

自分が作品をどう読みかき、読み取ったことを伝え表現する力を育てる。  
つけたい力を明確にして系統付ける。

昨年度までの確認事項  
授業の中で大切にしているポイント

授業の中で	日常的に
<input type="checkbox"/> 学習計画	<input type="checkbox"/> 学習のめあて
<input type="checkbox"/> 相手意識	<input type="checkbox"/> 学びのゴール
<input type="checkbox"/> フォーサイトの工夫	<input type="checkbox"/> 学びのあと
<input type="checkbox"/> モデル学習	<input type="checkbox"/> 振り返り
<input type="checkbox"/> 評価基準	<input type="checkbox"/> ヒントカード(個に応じた指導)
<input type="checkbox"/> 授業のはじまり	<input type="checkbox"/> 読み聞かせ
<input type="checkbox"/> 目的意識	<input type="checkbox"/> 学びのゴール
<input type="checkbox"/> 板書計画	<input type="checkbox"/> 視写
<input type="checkbox"/> 学習の流れ	<input type="checkbox"/> ことばのポケット

今後に繋げたいこと

【交流について】  
・グループ交流が活発になるために、どんな手だてを行うか(5・6年研究授業より)  
※ポイントを活用する(4年生研究授業より)  
・グループ交流での話し合いの内容を、クラス全体へどう伝えるか(5・6年研究授業より)  
※話し合った内容をいくつかのグループに発表させる  
・話し合いをさせる目的をはっきりとさせ、その目的を子どもに伝えることが大切(4年研究授業より)  
・低学年では、グループ交流より、ペア交流が効果的(2年研究授業より)  
・交流を行う際には、モデル学習が効果的(2年研究授業より)  
【書くこと・読むことについて】  
読む観点の提示や、文の書き方の形式を提示するなどの手立てを行うこと(5・6年研究授業より)

各研究授業の中で確認した  
次につなげるポイント  
毎回の授業は、このポイントを意識  
して提案する

3年生 「パンフレットを作ろう」

【つきたいカ】

- 登場人物の様子を叙述をもとに、想像豊かに書く (学)
- 話し合い活動を通して、自分の考えを深める (学)

① 黄色

全体交流やグループ交流をとおしての、子どもの学びについて

② 青色

その他 書く活動について  
・読む活動について  
・個に応じた指導について  
・発問、指示、授業の流れについて  
・その他

# 研究授業・研究会の持ち方について

古江台小 資料

## 研究主題と研究内容について

### 互いに認め合い、支え合い、学び子ども達を目指して ～「伝え合う力」を育てる指導の工夫～

指導案より授業提案のポイント  
を整理し、研究会の進め方資料と共に研究会で配付する。

## 今回の授業について（指導案より）

- 教科 理科
- 単元名 「空気や水をとじこめると」
- 本時の目標
  - ・ 空気と水の性質の違いをもとに、実験結果を理由をつけて予想を立てる。
  - ・ 友だちの意見との共通点や相違点に基づき自分の考えを深める。

### 児童の実態

- ・ 元気のいい児童数人がクラスを盛り上げている
- ・ 男女の仲もよく係活動や班活動などスムーズに行うことができる
- ・ 体育や図工、理科などの活動の多い教科が好き
- ・ 実際に自分が体験をしたことについては、よく意見を言う

### 課題

- ・ 友達との関わりを苦手とする児童もいる
- ・ 物事をよく考えて活動することは苦手
- ・ 自分が何を考え、何を言いたいのか、そして相手の言っていることに対して自分はどう思っているのか、など自分のことを相手に伝えることが苦手な児童が多い

## 「空気や水をとじこめると」について

ねらいとしては・・・

- ・ 空気や水の性質の違いに気づき、科学的な見方や考え方ができるようになる
- 具体的には・・・
- ・ 袋や容器に空気や水を閉じ込めて力を加える操作を通し、空気と水の性質の違いを捉える
- ・ 空気を袋に閉じ込めるなど空気を意識して遊ぶことで増段目に見えず、気にもしない空気が「もの」として確かに存在することを実感する
- ・ 空気鉄砲や注射器、ペットボトルなどの容器を用いて実験を行い、閉じ込めた空気及び水に力を加えると押し返す力はどう変化するかを調べ空気及び水の性質について考える

### 指導にあたって

### ねらいを具体的に整理

## めざす「伝え合い」の姿

- ・ 実験結果について予想を立て、なぜそうなるのかが伝わるように理由を付けて話す。
- ・ 自分の考えとの共通点や相違点に注意しながら友達の実験結果の予想を聞く。
- ・ 友達の前を受け、もう一度自分の予想について考えを深める。

## その姿にせまるための指導の工夫・手立て

- どうすれば「相手に伝わる」かを意識するために→ワークシートに「話すときのポイント」を自己評価欄として設けた
- 「伝える」ための準備
  - ① なぜそのような予想になるのかが相手に伝わるように→ワークシートに予想の理由を書く欄を設けた
  - ② 言葉で書きにくい児童のために→ワークシートに絵を描く欄を設けた
  - ③ 予想するときに理由付けで困らないために→ワークシートに書積してきたワークシートを振り返らせる
  - ④ それでも予想を立てられない児童のために→ヒントカードを渡す

○ 発表の仕方（伝え方）を身に付けさせるために→「発表のしかた」のプリントを用意する

○ 「相手と自分の共通点や相違点を意識しながら落とさないように聞く」ために

→ワークシートに「聞くときのポイント」を自己評価欄として設けた  
→ワークシートを進めるために→司会の進め方カードを用意する

## 指導の流れ

① 個人思考・・・・・・・・・・・・・・・・実験結果を予想する。

② グループ（5人）での話し合い・・・個人で考えた予想を理由付きで伝える。聞き手は、自分の予想との共通点や相違点を意識しながら、落とさないように聞く。そして班としての予想をまとめる。

③ 全体発表・・・・・・・・・・・・・・・・グループでの話し合いで決まった自分たちの予想を発表する。

④ 感想の交流・・・・・・・・・・・・・・・・各班の発表を聞いて、付け加えや反対意見があれば発表する。

自分や友だちの予想を交流することで考えが深まる経験を通して

↓  
自分の考えをしっかりと伝え、相手の考えも落とさず聞けるようにさせたい  
また、普段の生活の中でも自分のことを積極的により表現できるようにさせたい

## 研究会について

### 研究会の論点

・めざす「伝え合い」の姿（左記参照）にせまれていたか

・その姿にせまるための指導の工夫・手立て（上記参照）は有効であったか

### 研究討議のポイント

## 【本時の目標】

- 一場面から五場面の豆太を比べ、豆太の変化について考えをもつことができる。
- 全体やグループでの交流を通して、考えを深めることができる。

授業の中で	今回の授業を見る観点
<input type="checkbox"/> 学習計画 <input type="checkbox"/> 授業のはじまり <input type="checkbox"/> 学習の流れ <input type="checkbox"/> 相手意識 <input type="checkbox"/> 目的意識 <input type="checkbox"/> 学びのゴール <input type="checkbox"/> 学びのあと <input type="checkbox"/> 板書計画 <input type="checkbox"/> 学習のめあて <input type="checkbox"/> モデル学習 <input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 評価基準 <input type="checkbox"/> ヒントカード（個に応じた指導）	<b>【黄色付箋紙】</b> 全体・グループ交流をとおしての子どもの学びについて <b>【青色付箋紙】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動について</li> <li>・読む活動について</li> <li>・個に応じた指導について</li> <li>・発問、指示、授業の流れについて</li> </ul>

時間	学習活動	○指導上の留意点 ●主な発問	評価基準	授業記録メモ
5分	1、前時までの学習を振り返る。	○掲示物をもとに、前時までの学習を振り返る。		<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>本時の展開の中に、今までの研究会で共有化してきた授業の中で大切にポイントと、今回の授業提案のポイントを記入したワークシート</b></p> </div>
3分	2、本時のめあてを知る。	○本時のめあてを提示する。		
めあて：一場面から五場面の豆太がかわったかどうかを考えよう				
7分	3、一場面から五場面で豆太は変わっているか変わっていないか自分の考えを書く。	<b>●</b> 一場面と五場面の豆太を比べて、変わったか変わっていないか、自分の考えを書きましょう。 ○考えとともに、理由も書かせるようにする。 ○一場面と五場面のみで考えるのではなく、二から四場面も考えさせるようにする。	A 豆太の行動だけでなく、豆太の内面を想像して考え、理由として書くことができる。 B 豆太の行動を理由として書くことができる。	
10分	4、自分の考えを発表する	<b>●</b> 自分の考えを発表しましょう。 ○考えと理由を発表させる。	A 相手の話を自分との相違に気をつけながら聞き、意見を言うことができる。 B 相手の話を自分との相違に気をつけながら聞くことができる。	
10分	5、グループ交流をする。	<b>●</b> 全体で出た意見を見て、思ったことやわからないことを出し合い、話し合おう。 ○自分の考えと友達の考えを比べながら交流させる。		
5分	6、振り返りを書く。	<b>●</b> 全体やグループでの交流を通して、思ったことや気付いたことを書きましょう。 ○交流をしてみてわかったことや思ったこと、自分の意見がどうなったかなどの振り返りを書かせる。		
5分	7、振り返りを発表する。	<b>●</b> 振り返りを発表しましょう。		



研究協議会 グループワーク用シート例（１）

2月5年生研究授業

観点	(観点1) 自分の考えを表現	(観点2) 交流による学び	(観点3) 本時の目標
前回の授業から	・ 見通しを具体的に示して提示する。見通しから自分がやりたいと思ったことより友だちのやり方がよいと思ったらそれを考える。(わ・か・い) ☆「予想」をたてよう。(書く欄を設ける。)	・ 見せながら説明する。 ・ 合体して説明を作ってみては？ (どの子の式で、どの図で・・・) ☆話し方のパターンを覚えている。このあとの広がり が課題(相互で指摘し合うなどの対話型へ・・・)	・ みてわかる板書 ・ 子どもの字と板書を残す。 →同じものがわかる。 ☆理解を確認するために、(他の子のやり方で問題をとく時間をつくってみる。)
良さ			
課題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     前回からの学びを記入したグループ協議用ワークシート                      グループ協議では、この用紙にまとめながら進めます。                 </div>		
改善策			
今後の授業にいかしていきたいこと			

研究会終了後、各グループから出た意見を担当者がまとめたものです。今後に生かしていきたいことまでまとめ、共有化のため印刷して職員にも配付します。

2月5年生研究授業

観点	(観点1) 自分の考えを表現	(観点2) 交流による学び	(観点3) 本時の目標
前回の授業から	・ 見通しを具体的に示して提示する。見通しから自分がやりたいと思ったことより友だちのやり方がよいと思ったらそれを考える。(わ・か・い) ☆「予想」をたてよう。(書く欄を設ける。)	・ 見せながら説明する。 ・ 合体して説明を作ってみては？ (どの子の式で、どの図で・・・) ☆話し方のパターンを覚えている。このあとの広がり が課題(相互で指摘し合うなどの対話型へ・・・)	・ みてわかる板書 ・ 子どもの字と板書を残す。 →同じものがわかる。 ☆理解を確認するために、(他の子のやり方で問題をとく時間をつくってみる。)
良さ		○交流している雰囲気がとてもよかった。 ○話し合いがスムーズだった。	○授業規律ができています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎・基本の知識理解</li> <li>● 柔軟な問題づくりを</li> <li>● もっといろんなパターンの問題を前に出でていてみては？</li> <li>● 課題が難しい。</li> <li>● 問題量がおおいのでは？</li> <li>● 既習事項の確認を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎基本ができていなければ話し合いは難しい。</li> <li>● 発表とは交流？わかっていない子がいた。</li> <li>● 質疑応答が深まっていない。</li> <li>● 結論をはっきりしなかった。</li> <li>● 同意見が多く深まりが薄かった。</li> <li>● 全体交流から違いをみては？</li> <li>● 時間保証を。</li> </ul>	● 黒板に書くのを待つ時間がもったいない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 100円の2割引はいくら？などの具体例(子どもたちが入りやすいもの)を提示する。</li> <li>◎ ワークシートの工夫(限定しすぎないように)</li> <li>◎ ヒントカードのあり方の工夫</li> <li>① 3本線ではなく、1本線で。</li> <li>② ②10等分のものをつかう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 発表の方法を工夫する。(なぜこうなるのか質問ができる時間を設ける。)</li> <li>◎ 言語能力を深めることができるのか？→上手な子の言い方を学べるなど個々の学びがある。</li> <li>◎ 話し方のパターンを検討しては？</li> </ul>	
今後の授業にいかしていきたいこと	・ 見通しを具体的に示して提示する。見通しから自分がやりたいと思ったことより友だちのやり方がよいと思ったらそれを考える。(わ・か・い) ☆「予想」をたてよう。(書く欄を設ける。) ※ヒントカードのあり方	・ 見せながら説明する。 ・ 合体して説明を作ってみては？ (どの子の式で、どの図で・・・) ☆話し方のパターンを覚えている。このあとの広がり が課題(相互で指摘し合うなどの対話型へ・・・) ※系統立てた話し方の検討を。	・ みてわかる板書 ・ 子どもの字と板書を残す。 →同じものがわかる。 ☆理解を確認するために、(他の子のやり方で問題をとく時間をつくってみる ※ 書画カメラの使い方の工夫。

授業観察記録メモ

子どもの学びの姿

○それにつながった 教師の支援  
 ■ ( ) という支援が必要だったのでは？

※授業中または、授業終了後研究協議会までに各自でメモをしてください。

子どもの学びの様子・教師の支援

	よさ	課題	課題解決の方法
①自分の考えや意見を記述できていたか <small>(学習活動2) 12の素因数分解方法をノートに書く(個人)                  (学習活動4) 990の考え方をグループで書く(G)</small>			
②自分の考えや意見を発表出来ていたか <small>(学習活動3) 12の素因数分解の方法を伝える(個→G)                  (学習活動4) 990の素因数分解の方法を考える(G)</small>			
③自分の考えを基にグループで話し合い、各自の考えを深めることができていたか(G) <small>(学習活動3・4・5)</small>			
その他			

授業を見る観点にそって  
 本時の学習活動をあてはめたワークシート  
 各自で授業中に観点ごとにメモをしており、  
 それを元にグループで協議をする。

解決策については、グループで協議しながら  
 記入する。

授業研究会振り返りアンケート  
 参加者の学び

今日の授業研究会の進め方について、ご意見・ご感想を記入をお願いします。

	そう思う		ややそう思う		そうあまり 思わない		そう思わない
① 触発されるところが多く、自分にとって刺激になった。	4	—	3	—	2	—	1
② 自分の意見を表明することができた。	4	—	3	—	2	—	1
③ 視点がしっかりと定まった話し合いができた。	4	—	3	—	2	—	1
④ 授業をしっかり分析することができた。	4	—	3	—	2	—	1
⑤ 研究協議を深めることができた。	4	—	3	—	2	—	1
⑥ 今後の授業実践や授業改善の具体策が見えてきた。	4	—	3	—	2	—	1
⑦ 本日の研修方法についてご意見・ご感想を自由にお書きください。							
⑧ 今日の研修の学びは？一言で・							

名前

研究主題『心豊かな子どもを育てる』—算数科を通して、自分の考えを深め伝え合う力の育成—

重点項目	項目	焦点事項
	課題提示	必要感、不都合感をあじわわせること
	見通し	自分なりの見通しを考え、自ら選ばせること
◎	自力解決	自分なりの方法で、図や言葉を用いて解決すること
	仲間指導	個に応じた手だてを効果的に行うこと
◎	集団解決	発表（表現）された考えを「わ・か・い」観点でよさを表現すること
	振り返り	認知面での自己評価を効果的にさせること
	目標設定	目標への到達について
	聞く	友だちの考えを分かろうとする
	書く	したことや分かったことについて自分の感想を書く
	話す	語尾をはっきりと話す

各項目について、気になった内容を各自が記入します。今年度の重点項目は○をつけ、特に重点を置いて授業観察を行います。グループ協議では、これらの項目を参考にしながら、P35のグループワークカードを使ってグループ協議をすすめます。

津雲台小学校資料

## 授業パワーアップ表

このチェックリストは、授業者の授業改善に役立てる資料としてだけでなく、授業中の協議の切り口とするものです。  
授業について感じになった并排に記入ください。

( ) 年の授業を参照して…

今回の授業種類		今回の授業種類					
4	新量はわかりやすく、工夫されていたか	3	発問提示はわかりやすく、多様な考えをひきだすものになっていたか	2	子ども自身が考える場・表現する場があったか	1	学習目標が子どもたちに明確に示されていたか
							授業研究会の最初に、参加者が記入済み。各自の記入したことをもとめて、グループ協議を進めます。グループ協議した内容や、キーポイントなどについて色画用紙に書いて発表し全体で議めます。
							コメント

山五小 斎 浩

「段落のつながりに着目して説明文の構成を考えさせる授業」

今回の授業種類のポイント  
提案ポイントについて意見は  
こちらに自由記述



例として参観授業

① 今回の研究授業の討議の柱は、以下の3点です。

- (1) 相互評価の観点はよかったか。
- (2) よりよい報告を作るために、授業の形式は有効であったか。
- (3) その他、授業に関して。

これら3つの観点に沿って、3色の付箋

- 青付箋…よいところ
  - 赤付箋…課題（自分ならこうする）
  - 黄付箋…疑問・質問
- をメモしておいてください。研究協議会のグループ協議で使います。

② 子どもたちが話し合いを始めた時は、そばに寄ってどんな話し合いをしているか、よく聞いておいてください。（なるべくどの班にも聞く先生がいるように）

③ 授業評価表に記入できる所には記入し（すべてうめる必要はありません）、付箋メモや研究協議会の参考にしてください。

授業評価表

観点	質問	チェック
学習集団づくり	①児童一人ひとりが、学習の基本的なルールを身につけている。	
目標の設定	②児童の実態を把握した上で「本時の目標」を設定している。	
教材・教員の工夫	③効果的な教材・教員の工夫があった。	
発問・指示のわかりやすさ	④児童にわかりやすい発問を意識して、発問や指示を行っていた。	
板書の工夫等	⑤1時間の学習が振り回されるよう整理して板書を行っていた。	
活動の場の構成	⑥子どもたちが本時の課題（めあてや見通し）を意識できる場面があった。	
	⑦子どもたちが自分で考え、解決する時間を保証できていた。	
	⑧一人ひとりの授業中の学習状況を把握し、机間指導ができていた。	
個々の学習の成立	⑨1時間の学習の振りの返りで、子どもたち一人ひとりが満足感を味わっていた。	

□月 □日 (□)限 □年 □組

教科 □ 授業者 □ 先生 参観者 □

<1>参観の観点

- ①授業の始まりのつかみ
- ②子どもへの目線
- ③あたたかな表情、声調
- ④活動の目標を明確に示す
- ⑤明確な発問・指示
- ⑥心地よいテソボ
- ⑦全員の活動にする
- ⑧子どもの指名・声調・確認
- ⑨評価（ほめるなど）

<2>よかったと思うところ・気づいたところ・感想など

公開授業を参観するとき活用します。  
参観の観点にそって、授業を参観し、気づいたことをメモして、授業者に渡すようにしています。